

2026（令和8）年度

庄内自然博物館構想推進協議会

日 時：2026年3月26日（木）15:00～

会 場：鶴岡市自然学習交流館ほとりあ

…… 次 第 ……

1. 開 会

2. 協議会長あいさつ

3. 報 告

- (1) 2025（令和7）年度 会議報告
- (2) 2025（令和7）年度 事業報告
- (3) 2025（令和7）年度 収支決算
- (4) その他

4. 協 議

- (1) 2026（令和8）年度の協議会の体制(案) 及び会議予定(案)
- (2) 2026（令和8）年度 事業計画(案)
- (3) 2026（令和8）年度 収支予算(案)
- (4) その他

5. その他

- (1) 鶴岡市自然学習交流館ほとりあ使用料の改定（鶴岡市役所環境政策課）
- (2) 上池・下池の案内板損傷事案及び今後の対応（環境省羽黒自然保護官事務所）
- (3) 大山上池・下池ため池耐震補強工事（庄内総合支庁農村計画課）
- (4) 高館山遊歩道の状況（鶴岡市役所観光物産課、土木課）
- (5) 里山あるき「大山上池・下池」の開催（鶴岡市役所スポーツ課）

6. 閉 会

庄内自然博物園構想推進協議会 委員名簿(2025～2026年度)

NO	所属団体	所属役職	協議会役職	氏名	備考
1	鶴岡市大山自治会	会長	会長	櫻井 修治	
2	鶴岡市西郷自治会	会長	副会長	宮田 廣喜	
3	鶴岡市加茂地区自治振興会	会長		斎藤 正哉	欠席
4	鶴岡市湯野浜地区自治会	会長		後藤 重好	欠席
5	出羽商工会	大山支部代表理事		菅原 成規	
6	大山観光協会	会長	監事	遠藤 武	欠席
7	JA鶴岡	大山事業所長		福原 英喜	欠席
8	庄内赤川土地改良区	理事長		志田 敏朗	(代理出席)
9	西郷土地改良区	理事長	監事	佐藤 保	欠席
10	大山公園再生協議会	副会長		井上 俊男	欠席
11	庄内森林管理署	署長		松浦 博文	(代理出席)
12	羽黒自然保護官事務所	自然保護官		渡邊 元嗣	(代理出席)
13	鶴岡市自然学習交流館ほとりあ	館長		富樫 均	
14	出羽三山の自然を守る会	自然教室担当		長南 厚	
15	水野野生生物調査室	主宰		水野 重紀	
16	朝日庄内森林生態系保全センター	所長		岩間 由文	欠席
17	庄内自然博物園構想推進協議会 運営委員会	委員長	副会長	平 智	
18	庄内総合支庁産業経済部農村計画課	農林技監(兼)課長		門脇 健	(代理出席) 他1名同席
19	庄内総合支庁産業経済部森林整備課 森づくり推進室	室長		尾形 俊成	(代理出席)
20	庄内総合支庁保健福祉環境部環境課	課長		田中 利正	(代理出席)
21	鶴岡市市民部	部長		佐藤 玲子	
22	大山浮草組合	組合長		田中 富雄	他1名同席
-	鶴岡市自然学習交流館ほとりあ	元館長	相談役	植松 芳平	
-	鶴岡市農林水産部農山漁村振興課	農山漁村振興課長	オブザーバー	斎藤 秀一郎	(代理出席)
-	鶴岡市建設部土木課	土木課長	オブザーバー	岸井 史樹	他1名同席
-	鶴岡市健康福祉部子育て推進課	課長	オブザーバー	成沢 真紀	
-	鶴岡市商工観光部観光物産課	課長	オブザーバー	伊藤 弘治	
-	鶴岡市教育委員会学校教育課	課長	オブザーバー	秋山 尚志	欠席
-	鶴岡市教育委員会スポーツ課	課長	オブザーバー	阿部 三成	(代理出席)
事務局長	鶴岡市市民部環境政策課	主幹		石川 誠	
事務局次長	鶴岡市自然学習交流館	学芸員兼副館長		上山 剛司	
事務局	鶴岡市市民部環境課	環境専門員		藤原 義康	

3. 報 告

(1) 2025 (令和7) 年度 会議報告

庄内自然博物館構想推進会議の経過

① 庄内自然博物館構想推進協議会

日 時:2025(令和7)年3月27日(木)15:00~17:00
場 所:鶴岡市自然学習交流館ほとりあ 2階 学習交流室
内 容:2024年度の事業報告、2025年度の事業計画

② 庄内自然博物館構想推進協議会 運営委員会

第1回

日 時:2025(令和7)年7月2日(水)15:00~17:00
場 所:鶴岡市自然学習交流館ほとりあ 2階学習交流室
内 容:中長期計画(2024~2028年度)の進捗管理と取組みの推進

第2回

日 時:2025(令和7)年10月21日(火)15:00~17:00
場 所:鶴岡市自然学習交流館ほとりあ 2階学習交流室
内 容:今年度の取組みの進捗状況について

第3回

日 時:2026(令和8)年2月18日(水)15:00~17:00
場 所:鶴岡市自然学習交流館ほとりあ 2階学習交流室
内 容:中長期計画(2024~2028年度)の次年度(3年目)の推進

(2)2025(令和7)年度 事業報告

1. 来館者数 ***別紙①参照**

○2025年4月～2026年2月の入館者数:**23,375人** 稼働日数 281日(平日 173日、土日祝 108日)

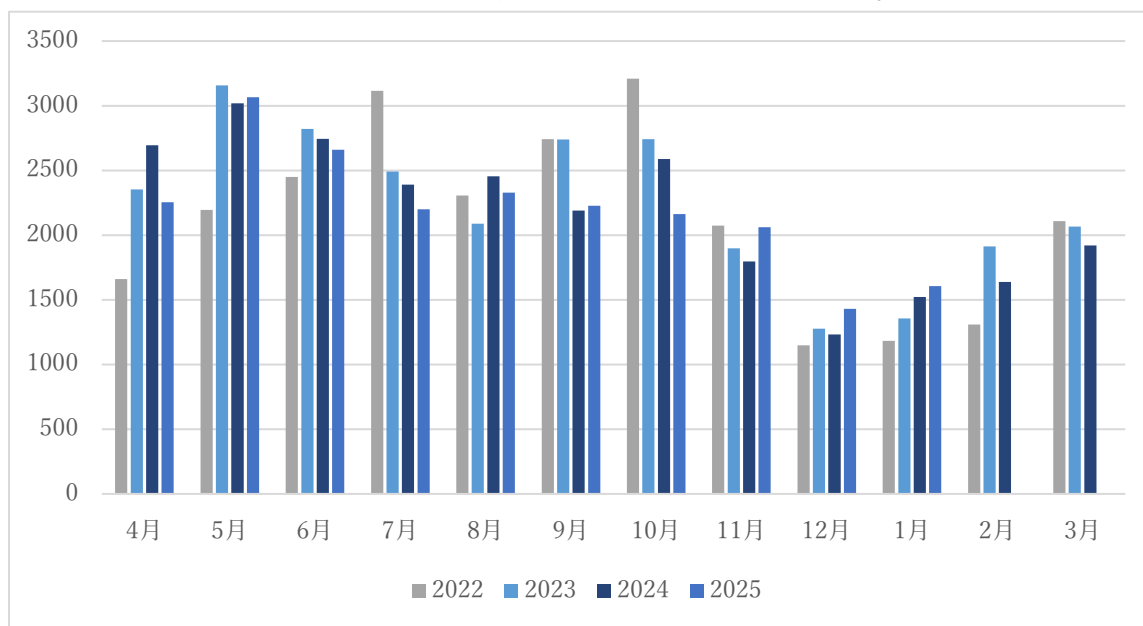
1日平均:83.2人、平日平均:60.2人、土日祝平均:120.0人

○2024年4月～2025年2月の入館者数:**24,269人** 稼働日数 281日(平日 176日、土日祝 105日)

1日平均:85.0人、平日平均:66.2人、土日祝平均:116.3人 ※通年の平均

○開館からの来館者総数は、**356,301人**

*2021年～2026年2月までの月別の来館者数のグラフを下記に示す。



2. 学習交流室

4月から1月まで延べ 69 団体(学習 38、研修 1、会議2、レクリエーション 7)、896 人

*2024年度4月～1月:69 団体(学習 39、研修9、会議2、レクリエーション 19)、1,279 人

年度	学習		研修		会議		レクリエーション		視察		その他	
	2024	2025	2024	2025	2024	2025	2024	2025	2024	2025	2024	2025
4月	2	2	1		0	1	1		0		0	
5月	3	5	1		0		5		0		0	
6月	6	7	1		0		3	4	0		0	
7月	4	5	3	1	0		1		0		0	
8月	3	1	1		0		2	1	0		0	
9月	7	5	0		0		2	1	0		0	
10月	5	5	2		1		3		0		0	
11月	6	3	0		0		1		0		0	
12月	2	1	0		0		0	1	0		0	
1月	1	4	0		1	1	1		0		0	
2月	3		0		1		0		0		0	
3月	2		0		1		1		0		0	
合計	44	38	9	1	4	2	20	7	0	0	0	0

3. イベント事業報告

(1) イベント

2025年4月～2026年1月末までのイベント参加者:3,280名 **(別紙②参照)**

主な事業:保全管理イベント:11回(345名)、自然観察会:8回(151名)、里地里山学講座:5回(90名)、ワークショップ:197回(2,516名)、散策会:7回(58名)、その他:1回(120名)

*2024年度1月末までは2,478名

(2) 企画イベント

(2)-1. 都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！～(通年)

散策しながら都沢湿地について知ってもらう機会となった。(2020年から実施)

(2)-2. 自然観察会「春の庄内アルプスを歩こう」(4/6、4/9)

庄内アルプス(油戸～ほとりあルート)を歩く自然観察会を実施。大変好評で大勢の市民の参加があった。秋に計画した「紅葉の庄内アルプスを歩こう」は、クマの影響を懸念し、開催中止とした。

(2)-3. 保全管理イベント「家畜導入による湿地管理」

ヤギの導入による湿地管理や魅力発信事業を実施。ヤギを通して多くの市民が湿地に興味関心をもつきっかけとなった。

(2)-4. ほとりあぬり絵コンテスト

「湿地の生きものたちをえがこう！」をテーマとして、湿地の生き物がデザインされた指定の図案から選んで応募する、ぬり絵コンテストを開催した。

342枚の応募があり、入賞者の表彰式、館内への作品展示を実施した。

(2)-5. コハクチョウの初飛来日あてコンテスト

応募数:455名(2024年度:276名、2023年度:453名)、正解者63名(正解は10月6日(月))

*正解者の中から抽選で選ばれた1名にコハクチョウのぬいぐるみと

湯田川温泉の宿泊ペアチケット券を贈呈



自然観察会「春の庄内アルプスを歩こう」



コハクチョウ初飛来日あてコンテスト
当選者にぬいぐるみと温泉チケットの贈呈

(2)-6. 里地里山学講座

第1回（6月28日開催） 参加者数：8名

ー湿地資源を飼料利用した畜産物生産ー

アメリカザリガニを給与したニワトリの卵庄内スマート・テロワールの豚肉加工品

講師：山形大学農学部 准教授 松山裕城氏



講演風景



講師の松山氏

第2回（7月26日開催） 参加者数：18名

ラムサール条約湿地・佐潟のハス復活プロジェクト

講師：佐潟と歩む赤塚の会 会長 涌井 晴之氏



講演風景



講師の涌井氏

第3回（9月21日開催） 参加者数：11名

ラムサール条約登録湿地・大山下池のサムライレンコンについて学ぶ

講師：加茂水族館 沖海月 料理長 須田剛史氏



講演風景



出来上がったサムライレンコンの料理

第4回（11月29日開催） 参加者数：28名

鶴岡市自然学習交流館ほとりあ歴代館長によるリレートークと鼎談
～ほとりあのこれまでと15年目への思い～

登壇者：植松芳平氏（鶴岡市自然学習交流館ほとりあ 初代館長）

遠見昌罔氏（鶴岡市自然学習交流館ほとりあ 2代目館長）

富樫均氏（鶴岡市自然学習交流館ほとりあ 現館長）



講演風景

里地里山学特別講座（1月24日開催） 参加者数：25名

「スワンププロジェクトー鳥類の渡り追跡公開と市民科学」

講師：嶋田哲郎 氏（公益財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団）



講演風景



講師の嶋田氏

第5回（3月20日開催） 参加者数：18名

「南極観測隊同行記」

講師：近岡 国史 氏（山形新聞社）



講演風景

4. 館内展示

千支のへびにちなみ、「ほとりあ周辺で見られるへびたち」と題した企画展示を8月から9月にかけて実施した。本展示では、都沢湿地や周辺環境に生息するへび類の種類や生態、役割について紹介し、地域の自然への関心を高めることを目的とした。また、同期間中には外来生物や渡り鳥に関する展示もあわせて開催し、地域の生物多様性或季節ごとの自然の変化について理解を深める機会を提供した。



展示風景



展示を使用した学習風景

5. 都沢湿地保全管理事業

(1) 通常管理

施設スタッフが年間を通じて、下池からの湿地への入水および湿地内の水位管理を行った。作業道および水路管理のための草刈りの実施。湿地内に生育する外来植物や陸地化の原因であるヤナギ、ノイバラは秋～春にかけて施設スタッフと有償事業者で伐採を実施した。その他にも冬季水門の堆積物の除去などを実施した。

(2) 保全管理イベント事業

今年度はこれまでの通常イベントと、そのうちの2回は、昨年協定を締結した「庄内セブンの森事業」との共同開催事業として実施した。年間345名（1回あたりの平均31.36名）の方が活動に参加した。



(3) 外来生物定期駆除

① 捕獲日数及びワナ数

6月8日～10月12日の期間に43日間、4,498罟を設置し、捕獲調査を実施した。
(2024年度:6月6日～10月17日の期間に39日間、4,415罟)

② 捕獲結果

- ・【ウシガエル成体】883 個体のウシガエル成体を捕獲。(2024年:1,092 個体、2023年:1,286 個体)
年間の CPUE は成体 0.20(2024年:0.25、2023年:0.26)
- ・【ウシガエル幼体】120 個体のウシガエル幼体を捕獲。(2024年:120 個体、2023年:7 個体)
年間の CPUE は幼体 0.084(2024年:0.003、2023年:0.001)
- ・【アメリカザリガニ】16,883 個体 (大 14,216 個体、小 5,959 個体) を捕獲。
(2024年:16,883 個体、2023年:19,982 個体)
- ・全体 CPUE 4.49、大=3.16、小=1.32
(2024年 3.82 大=2.58、小 1.24 2023年 4.00、大=2.47、小=1.53)

(4) 連携事業による管理

① 西郷土地改良区との共同作業

開館から毎年1回、西郷土地改良区と下池堤体内の外来植物駆除を実施してきた。今年度はアメリカセンダングサ、オオオナモミの生育が多数確認され、その駆除作業を行った。水位低下により外来植物の生育が促進されたものと考えられる。

② 企業団体連携

例年に引き続き、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社山形テクノロジーセンターの生物多様性イベントを都沢湿地で開催した。また、今年度も朝暘ライオンズクラブが保全管理イベントへの参画があった。

③ 就労支援連携事業

多機能型事業所いちほ(鶴岡市青柳町)と委託契約(2020年度から)を結び、4～10月までの月1回の団体派遣を通じて集草作業など軽作業を委託した。また、今年度からは工房せい(鶴岡市大山)と委託契約を結び、ざり卵プロジェクト(ザリガニをニワトリに餌として給餌し、質の良い卵を採取する)推進のための、駆除したザリガニのボイル、冷凍、袋詰めなどの軽作業の委託を始めた。

6. 外来生物活用プロジェクト

駆除した外来生物を新たな地域資源として有効活用することを目的とした「外来生物活用プロジェクト(2014年度に始め、今年度で12年目)」事業を立ち上げ、地域飲食店に駆除個体を食材として提供している。今年度の提供店舗は、ビストロ・デ・ポン(三川町)とラーメンダイニング晴天の風の2店舗に提供を行った。

○その他の取組み・ざり卵プロジェクト

7. 調査研究

(1) 大山上池・下池及び都沢湿地の水質浄化に関する研究

調査者：山形大学農学部 助教 梶原 晶彦

(2) 大山上池・下池及び都沢湿地における植生に関する研究

調査者：山形大学農学部 教授 林田 光祐

(3) 湿地植生等ドローン撮影

調査者：フレームワークス写真事務所

(4) 都沢湿地内における水生昆虫に関する調査

調査者：コクーンワールド福島

8. 湿地攪乱

(1) 都沢湿地攪乱業務

今年、都沢湿地北側の湿地攪乱及び自然学習環境整備業務として、2025年6月に都沢湿地北側区域で実施した。

9. サポーター活動

(1) サポーター数

2026年2月末現在のサポーター数は 101名 (2024年度 2025年2月末時点 89名)

アクティブ会員 90名、賛助会員 11名

(2) サポーター券

2026年2月末現在のサポーター券は 550枚 を発行。(2024年度 2025年2月末時点 508枚)

2025 (R7) 年度 環境保全応援寄附金事業 中間報告

2025 (R7) 年度 寄附金事業の収支報告 (2026 年 2 月末日現在)

○繰越

・ 1,828,281 円

○入金

・ 546,152 円

	件数	金額	備考 (内訳等)
個人	12 件	41,179 円	
団体等	1 件	5,000 円	そめりあサークル 様
協議会 事業等	—	183,710 円	イベント参加費 等
寄附金箱 ※ほとりあ カウンター に設置	—	316,263 円	4 月 26,890 円 11 月 10,466 円 5 月 40,693 円 12 月 5,000 円 6 月 17,910 円 1 月 8,185 円 7 月 28,591 円 2 月 6,336 円 8 月 45,919 円 他 9 月 20,308 円 ほとべえ 21,827 円 10 月 31,588 円 その他 52,550 円
計	13 件	546,152 円	

○出金

・ 404,674 円

	件数	金額	備考 (内訳等)
普及啓発物	0 件	—	
事業 支出	—	404,674 円	・ まんませんべい加工費 ・ ほとりあサポーター券の寄附金負担分 ・ 生きもの供養祭お布施 ・ 協議会環境保全活動費、備品購入 等
計	—	404,674 円	

○現在残額

・ 1,969,759 円

○寄附金総額

・ 4,063,321 円 (2026 年 2 月末)

(3)2025(令和7)年度 庄内自然博物園構想推進協議会 収支決算(3/19時点中間報告)

2025(令和7)年度 庄内自然博物園構想推進協議会本会計(見込みを含む3/19時点)

収 入

単位:円

項目	予算金額	決算金額	比較	備考
補助金(鶴岡市より)	17,071,000	16,683,774	△ 387,226	協議会事業に対する補助金
雑収入	180,000	402,887	222,887	参加者負担金、視察受入時の謝礼、預金利息等
環境応援寄付金	300,000	269,894	△ 30,106	
その他	0	627,228	627,228	セブン-イレブン記念財団
合計	17,551,000	17,983,783	432,783	

支 出

項目	予算金額	決算金額	比較	備考
(1)人件費	11,373,000	10,427,607	△ 945,393	職員給与等
(2)報償費	367,000	1,105,353	738,353	講師、労務アルバイト等謝礼
(3)旅費	94,000	311,293	217,293	職員旅費
(4)需用費	757,000	1,080,970	323,970	消耗品・食糧費等
(5)役務費	327,000	446,453	119,453	通信料・手数料・保険料等
(6)委託料	112,000	472,133	360,133	事務作業、草刈り作業委託
(7)補助金	4,521,000	4,133,774	△ 387,226	地域おこし協力隊(人件費・活動費)
(8)予備費	0	6,200	6,200	
合計	17,551,000	17,983,783	432,783	

収入 17,983,783円 - 支出 17,983,783円 = 0円 ※年度末見込み

2025(令和7)年度 公益信託 庄内銀行ふるさと創造基金

収 入

単位:円

項目	予算金額	決算金額	比較	備考
ふるさと創造基金	100,000	100,000	0	
自己資金	0	1,406	1,406	
雑収入(預金利息)	0	84	84	
合計	100,000	101,490	1,490	

支 出

項目	予算金額	決算金額	比較	備考
(1)ほとりあ・竹あかりプロジェクト	100,000	101,490	1,490	消耗品等
			0	
合計	100,000	101,490	1,490	

収入 101,490円 - 支出 101,490円 = 0円

2025(令和7)年度 一般社団法人セブン-イレブン記念財団助成金

収 入

単位:円

項目	予算金額	決算金額	比較	備考
セブン-イレブン記念財団助成	1,499,155	1,499,155	0	
雑収入(預金利息)	0	134	134	
合計	1,499,155	1,499,289	134	

支 出

項目	予算金額	決算金額	比較	備考
(1)備品費	923,540	893,690	△ 29,850	木道材料、ソーラーパネル、水中ポンプ 等
(2)消耗品費	225,595	223,767	△ 1,828	農、長靴、胴長 等
(3)調査費	200,000	200,000	0	植生調査
(4)広告費	130,020	130,020	0	ホームページリニューアル
(5)講座謝礼	20,000	20,000	0	学習会講師謝礼
合計	1,499,155	1,467,477	△ 31,678	

収入 1,499,155円 - 支出 1,467,477円 = 31,812円 ※残金はセブン-イレブン記念財団へ返金予定

環境保全応援寄附金(2026年2月現在)

単位:円

収入		支出	
(1)2024(R07)年度繰越	1,828,281	(1)寄附金事業支出	21,652
(2)団体・個人からの寄附	46,179	※資源活用 等	
(3)寄付金箱による寄附	316,263	(2)協議会事業費	383,022
(4)イベント等での寄附等	183,710	※外来生物活用PJ費用 等	
	0		
収入計	2,374,433	支出計	404,674

収入 2,374,433円 - 支出 404,674円 = 1,969,759円 ※2026年2月末現在

中間監査報告書


2025（令和7）年度庄内自然博物館構想推進協議会の会計監査にあたり、収入支出に伴う中間収支報告書及び現金出納簿、収支関係証票、預金通帳を慎重に審査した結果、いずれも正確かつ適正であることを認めます。

令和8年 3月24日

庄内自然博物館構想推進協議会
会長 櫻井 修治 様

庄内自然博物館構想推進協議会

監事 佐藤 保 

監事 遠藤 武 

4. 協議

(1) 2026(令和8)年度庄内自然博物館構想推進体制(案)及び会議予定(案)

■ 組織

(1) 庄内自然博物館構想推進協議会(年1回開催) 3月26日(木)

(2) 運営委員会(年3回開催) 5月、10月、2月 ※予定

- ・庄内自然博物館構想やその中長期計画(2024~2028年度)の推進のため、具体的な取組みの検討や計画、実施、進捗管理を行う。

(3) 関係機関調整会議(必要に応じて随時開催)

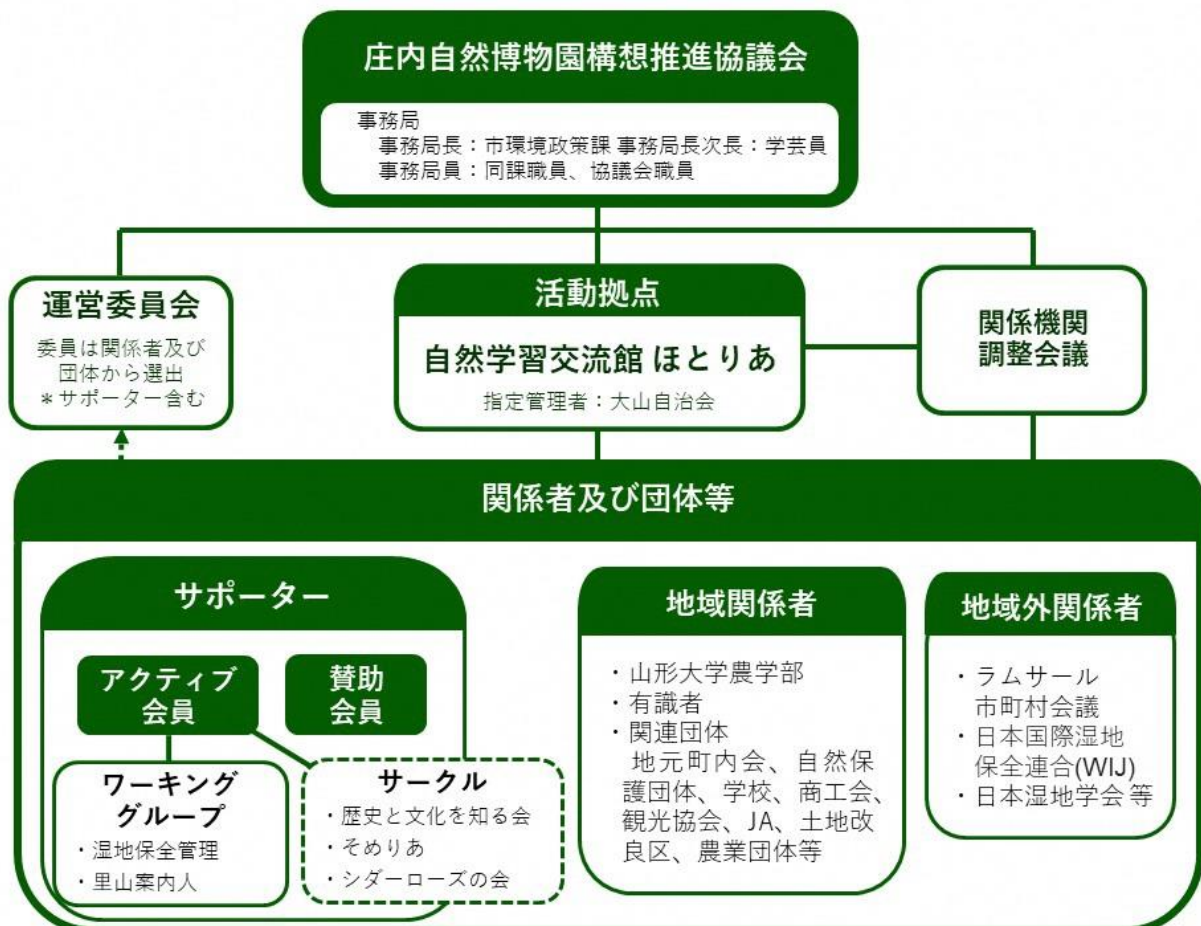
- ・構想の推進のための情報の共有と、諸課題に対する関係機関・団体等と調整を図る。
- ・関係者合同交流会 7~8月 ※予定

(4) ワーキンググループ

- ・同じ活動目標を持った運営委員及びサポーターは、ワーキンググループを設立することができることとしており、事務局及び他グループ間との連絡を密にして活動を行う。

(5) サポーター制度

- ・本事業の充実を図るために積極的に活動に参画するアクティブ会員、資金や広報を支援する賛助会員で構成する。各会員は個人、団体とも登録ができることとしている(両方の登録も可能)。
- ・アクティブ会員は、中長期計画の4つの目標(まもる、まなぶ、つかう、つながる)の活動を中心に、事業補助などの活動を行う。
- ・アクティブ会員(個人)には、1回(約2時間)のサポーター活動につき、1枚のサポーター券(大山商店奉仕会との協働事業)を交付する。



(2) 2026 (令和8) 年度協議会事業 (案) 及び施設事業計画 (案)

1. 保全管理事業

1-1. 外来生物駆除 (ウシガエル、アメリカザリガニ)

実施期間: 5月~10月

実施場所: 都沢湿地、下池周辺も検討

体制: 有償活動

1-2. 外来植物駆除 (セイタカアワダチソウ、ブタクサ、アメリカセンダングサなど)

実施期間: 5月~10月

実施場所: 都沢湿地、下池堤体 (所有者: 西郷土地改良区)

体制: サポーター、地域、企業活動など (*活動状況を見ながら有償活動も検討)

1-3. 外来生物排除区域内の動植物調査

実施場所: 都沢湿地北側区域

1-4. 草刈り作業

実施期間: 年3回 (6, 8, 10月)

実施場所: 都沢湿地

体制: 有償活動

1-5. ヨシ・マコモ刈り取り隊事業

実施期間: 6~10月

実施場所: 都沢湿地

体制: 市民による指定された区域内のヨシ、マコモの刈り取り作業

1-6. 湿地保全管理イベント事業

実施数: 年7回 (今年度は10回計画)

体制: 保全管理ワーキンググループ

参加条件: サポーターおよび関係機関や地域住民

1-7. ヨシ焼事業

実施期間: 3~4月

実施場所: 都沢湿地

体制: ヨシによる陸地化が進んでいる場所のヨシ焼 (前回は2025年3月29日に実施)

1-8. 家畜導入による湿地管理

実施期間: 4月下旬~10月 (2022年から実施)

実施場所: 都沢湿地

1-9. みまもり隊事業

実施期間: 通年

実施場所: 高館山、下池湖畔、都沢湿地

1-10. 湿地コンテナオーナー制度

実施期間: 5~10月

内容: 年3回程度のコンテナ湿地の管理および生きもの調査

1-11. 条件付特定外来生物ミシシippアカミミガメの駆除の受け入れ

実施期間: 5~10月 (捕獲場所および雌雄判別、計測後、冷凍駆除)

2. 自然学習事業

2-1. 自然観察会

実施数：年 10 回（2025 年度 8 回実施）

体制：講師およびスタッフ、サポーター

2-2. 里地里山学講座

実施数：年 5 回（今年度 5 回）

体制：講師を招聘する

2-3. 里地里山学講座 特別講座

実施数：年 1 回（2025 年度「スワンププロジェクトー鳥類の渡り追跡公開と市民科学」）

体制：講師を招聘する

2-4. 座談会・学習会

実施数：年 2 回（今年度 1 回）

体制：スタッフ、ワーキンググループ

内容：地域資源の活用方法をテーマに実施予定

2-5. アメリカザリガニ捕獲大作戦（今年度 2 回）

実施数：年 2 回

体制：スタッフ、サポーター、参加団体

内容：参加団体毎の都沢湿地全体のアメリカザリガニ駆除

2-6. ほとりあ自然クラブ

参加者：庄内地域の新小学 3 年生～新中学 3 年生までの児童、生徒

内容：都沢湿地の自然や歴史について調べ、現状と課題について考える

2-7. 都沢湿地ウォークラリー事業

実施期間：通年

内容：都沢湿地を散策しながら湿地や施設について学ぶ

雨天時は館内でも対応可能

2-8. どろっばのたまご事業

実施期間：通年

内容：都沢湿地を散策しながら湿地にかかわるキーワードを探す

雨天時は館内でも対応可能

2-9. 自然散策会

実施数：春（4 月、3 月）10 回

体制：里山案内人ワーキンググループ

内容：都沢湿地、下池、高館山を案内人と一緒に散策する

2-10. どろんこ広場活用事業

実施数：年 1 回

体制：地元保育園を招待、関係団体との共催事業

2-11. ほとりあ学習発表会

開催日：2026 年 3 月第 2 週の土曜日を予定

2-12. 夜の開放日

開催日：2026 年度 毎月 1～2 回開催予定

2-13. ワークショップ事業（有償）

目 的：身近な自然環境への興味関心を高める若年層向け、親子向けワークショップ
実施数：年 20 回
内 容：野草茶づくり、ヨシ紙づくり
体 制：サポーターおよび地域住民
参加条件：申込みあり、参加費あり

2-14. ワークショップ事業（無償）

目 的：身近な自然環境への興味関心を高める若年層向け、親子向けワークショップ
実施数：年 20 回
内 容：折り紙、童謡、絵本の読み聞かせ、いきものミッケなど
体 制：サポーター
参加条件：申込みおよび参加費はなし

2-15. 市内小学校への出張教室の実施

目 的：複数回の自然学習の促進

2-16. オンライン学習の受入れ整備

目 的：コロナ禍以降に県外の高校、大学からオンライン学習の依頼が増えてきたため、
受け入れ体制の整備

2-17. 学生インターシップの受入れの検討

目 的：コロナ禍以降、希薄になってきた高校生、大学生との現場での体験の場を創出する
ことを目指し、インターシップの導入の検討

3. 中長期計画推進事業

3-1. 各種事業の推進

中長期計画に沿って各種事業を実施

4. 開館 15 周年およびラムサール条約登録 20 周年記念事業

2027 年に施設 15 周年を迎えるため、施設及び都沢湿地の水路などの老朽化対策を検討。
あわせて、2028 年度を迎える大山上池・下池の登録 20 周年に向けて事業を検討する。
*2027 年度は鶴岡市で湿地学会を開催が内定

5. 庄内のセブンの森事業

5-1. 庄内セブンの森活動助成金

- ① 申請額：1,499,994 円
- ② 申請内容：物置の購入（約 500,000 円、都沢湿地の陸生昆虫委託調査

5-2. 湿地保全管理イベント

実施数：年 2 回（6 月 27 日（土）、10 月 31 日（土））

内 容：セブン・イレブン記念財団、地元のセブン・イレブンオーナー、市民との協働事業

5-3. セブン財団との交流

6. ラムサール条約登録湿地事業

6-1. ラムサール条約登録 ワークショップの開催

6-2. 国内ラムサール登録地との交流

日本湿地学会（明治大学）や全国ヒシサミット（福島県猪苗代湖）への参加

6-3. いきもの絵・ぬり絵コンテスト

市内及び庄内地域の幼保・小学生を対象に開催を検討

6-4. コハクチョウの飛び立ちカフェ

2026年は10月～11月に2回ほど開催予定。

6-5. コハクチョウの初飛来日あてコンテスト 2026

6-6. ボート遊び事業

7. 外部資金採択事業

7-1. 公益信託 荘内銀行ふるさと創造基金（申請中）

③ 申請名：「外来生物の資源活用 農福環学連携が繋ぐ「ざり卵」プロジェクト」

④ 申請額：199,290円

⑤ 申請内容：活動記録の動画や冊子の制作。学習会を開催することで成果を地域へ共有し、市民参画型の持続可能な湿地保全モデルを確立する。

7-2. 経団連自然保護基金（申請中）

① 申請名：「多様なステークホルダーによる湿地環境の再生と環境教育プログラムの実践」

② 申請額：2,960,000円

③ 申請内容：中長期計画に向けた湿地再生活動の実践

7-3. その他

年度途中に応募可能な助成制度があった場合は申請を検討

8. 里地里山活用事業

8-1. 薪確保作業

実施期間：4月～10月

体制：スタッフ及び有償活動

8-2. 里山マルシェ

実施期間：年1回（11月に開催予定）

体制：ほとりあスタッフおよびサポーター中心に企画、実施

8-3. 外来生物活用プロジェクト（店舗への食材提供）

提供物：ウシガエル、アメリカザリガニ

提供店舗：鶴岡市内の飲食店提供予定

8-4. 外来生物活用プロジェクト（粉末化事業）

内容：粉末化したアメリカザリガニの料理店や家庭での利用促進

8-5. 外来生物活用プロジェクト（鶏卵事業）

内容：アメリカザリガニの養鶏用の餌利用

8-6. マコモ活用事業

体制：ほとりあスタッフおよびサポーター

内容：刈取りをする大型湿性草本のヨシやマコモの有効活用を検討
ヤギの導入（レンタル）による湿地資源循環の取り組み

8-7. ヒシ、ハスの活用循環事業

内容：江戸時代から続く大山浮草組合の権利物であるヒシやハスの活用について検討
活用をとおして、湿地資源の循環と文化について考える

8-8. 湿地の恵みのファーム事業（大豆畑）

体制：ほとりあスタッフおよび地元農家

内容：刈取りをする大型湿性草本の堆肥活用と収穫される作物の利用

8-9. ふるさと納税への出品の検討および商品整理

9. 展示事業

9-1. 企画展示

回数：年2回程度

内容：愛鳥週間、外来生物展示、水生昆虫展示など

9-2. 館内展示

里山情報掲示板や野鳥情報の更新、ほとりあ周辺のへびの展示

10. 調査研究

10-1. 大山上池・下池、都沢湿地 植生調査

委託：山形大学農学部 林田 光祐 教授

10-2. 大山上池・下池、都沢湿地 水質調査

委託：山形大学農学部 梶原 晶彦 助教

10-3. 湿地植生等ドローン撮影調査

飛行委託：フレームワークス写真事務所（齋藤圭介氏）

10-4. 大山上池・下池、都沢湿地 陸生昆虫調査

委託：高嶋清明写真事務所（高嶋清明氏）

10-5. ワーキンググループ、サークルなどのサポーター調査活動

- ・ホタルの生息やギフチョウの産卵調査
- ・指標生物種のモニタリング調査
- ・高館山周辺の歴史文化
- ・里山の資源を活用した草木染め

11. 先進地視察事業

11-1. 里地里山先進地視察

開催：年1回程度

対象者：関係機関、サポーター、ほとりあ、環境政策課

12. 地域交流連携事業

12-1. 大山地域まつり連携事業

大山公園さくらまつり、大山新酒酒蔵まつりとの連携

12-2. 高館山少年教室への協力

12-3. 就労支援施設の実習の受入および事業連携

2025年度は鶴岡市内の就労支援施設の実習の受入1件。事業連携3件を予定

12-4. 鶴岡第五中学校地域学習の受入

13. 連携事業

13-1. 森林文化都市関連施設連携事業

市内にある自然学習施設との連携事業の検討

14. 普及啓発物作成

14-1. 活動報告書の制作

これまで未発刊の年間活動報告書（簡易版）を作成

14-2. 活動紹介動画の作成

オンライン学習可能な活動紹介動画を作成

14-3. 本構想の中長期計画 HP への UP

14-4. SNS 促進事業

LINE、Instagram などの活用によるイベント集客の促進

14-5. その他

手ぬぐいや缶バッジ、ぬいぐるみなどPRグッズの開発

(3)2026(令和8)年度 庄内自然博物園構想推進協議会 収支予算(案)

2026(令和8)年度 庄内自然博物園構想推進協議会予算

収 入

単位:円

項目	本年度予算額	備考
(1)補助金(鶴岡市)	13,903,000	協議会事業に対する補助金
(2)雑収入	180,000	参加者負担金、預金利息等
(3)環境応援寄附金	300,000	
(4)その他	500,000	庄内セブンの森活動補助 等
合計	14,883,000	

支 出

項目	本年度予算額	備考
(1)人件費	11,691,000	職員人件費・社会保険料・労働保険料 等
(2)報償費	1,000,000	講師、ボランティア等謝礼・外来種駆除 等
(3)旅費	300,000	職員旅費
(4)需用費	1,000,000	自然学習消耗品・食糧費・活動報告書印刷製本費 等
(5)役務費	420,000	通信料・手数料・保険料 等
(6)委託料	472,000	外部委託料
合計	14,883,000	

環境保全応援寄附金

単位:円

収入		支出案	
(1)2025(R7)年度繰越(見込み)	1,969,759	(1)協議会事業関連(活動費)	100,000
(2)団体・個人からの寄附	30,000	※外来生物活用PJIに関する費用等	
(3)寄付金箱による寄附	120,000	(2)イベントや活動に対する人件費	200,000
(4)イベント等での寄附		※人件費は環境保全応援寄附金全体の2割を上限とする	
		(3)サポーター券寄附金負担分	17,500
		※過去の年間使用実績から700枚×25円で算出	
収入計	2,119,759	支出	317,500

※今年度も引き続き寄附金の周知を進めるとともに、寄附金から上記事業への支出を検討したい。

鶴岡市自然学習交流館設置及び管理条例の改正について

1. 使用料の見直し

鶴岡市自然学習交流館の学習交流室の使用について、維持管理に係るコスト増を踏まえた使用料の見直しに加え、使用区分など、施設利用に関する規定を見直すものです。

改正前				改正後	
別表（第11条関係）				別表（第11条関係）	
				(1時間あたり)	
区分	基本使用料			区分	基本使用料
	午前	午後	全日	学習交流室	440円
	午前9時から午後0時30分まで	午後0時30分から午後4時30分まで	午前9時から午後4時30分まで		
学習交流室	1,250円	1,360円	2,410円		
備考				備考	
1 使用者が営利又は宣伝を目的として使用する場合は、基本使用料に基本使用料の10割に相当する額を加算した額とする。				1 使用者が営利又は宣伝を目的として使用する場合は、基本使用料に当該基本使用料の10割に相当する額を加算した額とする。	
2 使用時間には、準備及び原状に復するために要する時間を含む。 (新設)				2 使用時間には、準備及び原状に復するために要する時間を含む。	
3 設備等の使用料及び冷暖房料は、市長が別に定める。				3 使用時間が1時間に満たないとき、又は使用時間に1時間未満の端数があるときは、その時間又は端数を1時間に切り上げる。	
4 設備等の使用料及び冷暖房料は、市長が別に定める。				4 設備等の使用料及び冷暖房料は、市長が別に定める。	

2021（令和3）年度～2025（令和7）年度 鶴岡市自然学習交流館ほとりあ来館者状況推移

別紙1

年度	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	参考 ※過去同月までの計
2021	稼働日数	26	27	25	27	26	26	27	25	24	25	24	26	308	282
2022		26	26	26	27	26	26	27	26	24	25	25	27	311	284
2023		26	26	26	27	26	26	26	26	24	24	25	26	308	282
2024		25	27	26	26	27	26	26	26	24	24	24	27	308	281
2025		<u>25</u>	<u>27</u>	<u>26</u>	<u>26</u>	<u>27</u>	<u>25</u>	<u>27</u>	<u>26</u>	<u>24</u>	<u>24</u>	<u>24</u>		<u>281</u>	
2021	来館者	1,814	1,737	2,655	2,793	1,968	2,183	1,984	1,732	1,085	824	799	1,390	20,964	19,574
2022		1,660	2,194	2,450	3,116	2,307	2,742	3,210	2,073	1,149	1,184	1,310	2,107	25,502	23,395
2023		2,354	3,158	2,820	2,508	2,088	2,740	2,742	1,898	1,277	1,355	1,913	2,066	26,919	24,853
2024		2,695	3,018	2,743	2,391	2,455	2,189	2,588	1,797	1,232	1,523	1,638	1,920	26,189	24,269
2025		<u>2,254</u>	<u>3,066</u>	<u>2,659</u>	<u>2,199</u>	<u>2,328</u>	<u>2,226</u>	<u>2,163</u>	<u>2,061</u>	<u>1,430</u>	<u>1,607</u>	<u>1,382</u>		<u>23,375</u>	
2021	平均来館者	69.8	64.3	106.2	103.4	75.7	84.0	73.5	69.3	45.2	33.0	33.3	53.5	68.1	
2022		63.8	84.4	94.2	115.4	88.7	105.5	118.9	79.7	47.9	47.4	52.4	78.0	82.0	
2023		90.5	121.5	108.5	92.3	80.3	105.4	105.5	73.0	53.2	56.5	76.5	79.5	87.4	
2024		107.8	111.8	105.5	92.0	90.9	84.2	99.5	69.1	51.3	63.5	68.3	71.1	85.0	
2025		<u>90.2</u>	<u>113.6</u>	<u>102.3</u>	<u>84.6</u>	<u>86.2</u>	<u>89.0</u>	<u>80.1</u>	<u>79.3</u>	<u>59.6</u>	<u>67.0</u>	<u>57.6</u>		<u>83.2</u>	
2021	平均来館者 (平日)	60.1	61.7	93.8	83.0	74.1	76.5	67.5	44.1	38.1	31.4	30.8	51.4	59.9	
2022		42.9	59.0	76.7	103.6	86.0	83.1	81.6	57.4	45.0	37.3	42.1	62.5	65.0	
2023		76.0	76.1	88.3	78.4	72.4	83.5	94.6	64.1	44.5	46.2	44.8	52.7	69.1	
2024		78.8	74.0	74.8	72.6	73.2	69.0	95.4	53.2	40.9	43.9	52.5	59.4	66.2	
2025		<u>60.3</u>	<u>80.9</u>	<u>79.6</u>	<u>59.1</u>	<u>60.8</u>	<u>77.9</u>	<u>66.9</u>	<u>47.1</u>	<u>41.0</u>	<u>43.1</u>	<u>39.3</u>		<u>60.2</u>	
2021	平均来館者 (土日祝日)	88.1	67.2	132.5	133.2	78.3	95.9	82.2	107.0	59.5	35.7	36.8	57.4	81.3	
2022		97.4	114.0	133.6	132.5	93.9	141.2	173.1	115.5	53.6	65.2	70.7	109.1	110.5	
2023		113.8	183.3	153.9	112.5	95.3	140.4	122.8	87.2	70.6	73.6	124.1	115.9	117.3	
2024		159.3	176.0	154.6	128.6	121.1	104.9	107.3	94.6	72.1	96.0	90.3	88.1	116.3	
2025		<u>143.3</u>	<u>161.0</u>	<u>145.0</u>	<u>132.7</u>	<u>123.2</u>	<u>98.0</u>	<u>109.2</u>	<u>116.8</u>	<u>96.8</u>	<u>106.7</u>	<u>83.2</u>		<u>120.0</u>	

2025年度 イベント参加状況中間報告(2026年2月末まで)

イベント・事業実施数 252

参加者数 3,643

No.	月日	曜日	イベント区分	イベント名	参加者数 (名)
1	4月5日	土	保安全管理イベント	春のクリーンアップ作戦	26
2	4月5日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第59弾 通番1	4
3	4月5日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番1	11
4	4月6日	日	自然観察会	自然観察会 早春の庄内アルプスを歩こう～油戸ルート～	34
5	4月6日	日	散策会	春の里山散策会	8
6	4月6日	日	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番2	2
7	4月9日	水	自然観察会	自然観察会 早春の庄内アルプスを歩こう～油戸ルート～	30
8	4月9日	水	散策会	春の里山散策会	7
9	4月12日	土	自然観察会	自然観察会 北限のコシノコバイモ観察会	20
10	4月12日	土	散策会	春の草花と伝説をめぐる散策会	13
11	4月12日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第60弾 通番7	1
12	4月13日	日	散策会	春の里山散策会	7
13	4月16日	水	散策会	春の里山散策会	5
14	4月19日	土	散策会	春の里山散策会	7
15	4月19日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第59弾 通番13	1
16	4月19日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番13	2
17	4月26日	土	保安全管理イベント	ヒメリュウキンカ駆除作戦	19
18	4月26日	土	ワークショップ	下池でボート遊び	27
19	4月26日	土	ワークショップ	積み木ワークショップ	32
20	4月26日	土	ワークショップ	ぬり絵ワークショップ	31
21	4月26日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第59弾 通番19	6
22	4月26日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番19	7
23	4月27日	日	散策会	春の里山散策会	11
24	4月27日	日	ワークショップ	積み木ワークショップ	16
25	4月27日	日	ワークショップ	ぬり絵ワークショップ	14
26	4月27日	日	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第59弾 通番20	2
27	4月27日	日	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番20	6
28	4月29日	火	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第59弾 通番22	4
29	5月1日	木	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第60弾 通番23	5
30	5月1日	木	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番23	2
31	5月2日	金	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第60弾 通番24	7
32	5月3日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第60弾 通番25	4
33	5月3日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番25	12

No.	月 日	曜日	イベント区分	イベント名	参加者数 (名)
34	5月3日	土	ワークショップ	下池でボート遊び	44
35	5月3日	土	ワークショップ	ミニ竹あかりづくり	38
36	5月4日	日	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第60弾 通番26	19
37	5月4日	日	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番26	19
38	5月4日	日	ワークショップ	マイクロプラスチックのアクセサリづくり	32
39	5月4日	日	ワークショップ	湿地クラフトづくり	28
40	5月4日	日	ワークショップ	水辺のいきものみっけ♪	19
41	5月5日	月・祝	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第60弾 通番27	5
42	5月5日	月・祝	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番27	14
43	5月5日	月・祝	ワークショップ	新緑の森探検隊	2
44	5月5日	月・祝	ワークショップ	ザリガニ釣り体験	174
45	5月6日	火・祝	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第60弾 通番28	7
46	5月10日	土	ワークショップ	No1 水路の整備作業と外来生物駆除	19
47	5月10日	土	ワークショップ	初夏の植物観察会 (中止)	-
48	5月10日	土	ワークショップ	【母の日企画】湿地の花束づくり	12
49	5月11日	日	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第60弾 通番32	4
50	5月17日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第60弾 通番37	1
51	5月17日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番37	1
52	5月17日	土	ワークショップ	ヤギの飼育体験	4
53	5月18日	日	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番38	2
54	5月22日	木	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番41	15
55	5月24日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番43	1
56	5月31日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番49	2
57	5月31日	土	ワークショップ	都沢湿地の生きものさがし	9
58	5月31日	土	ワークショップ	鶴岡産積み木遊び	19
59	5月31日	土	ワークショップ	ほとりあオリジナルぬり絵	16
60	6月2日	月	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第61弾 通番51	2
61	6月2日	月	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番51	2
62	6月7日	土	保安全管理イベント	親水水路の草刈りと外来生物駆除	17
63	6月8日	日	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第61弾 通番56	6
64	6月8日	日	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番56	10
65	6月8日	日	ワークショップ	鶴岡産積み木で遊ぼう	30
66	6月8日	日	ワークショップ	湿地の植物で笛をつくろう	32
67	6月11日	水	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番58	17
68	6月14日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第61弾 通番61	2
69	6月15日	日	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第61弾 通番62	2
70	6月15日	日	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番62	4
71	6月20日	金	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番66	13

No.	月 日	曜日	イベント区分	イベント名	参加者数 (名)
72	6月21日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第61弾 通番67	1
73	6月21日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番67	1
74	6月21日	土	保安全管理イベント	セブンの森事業 都沢湿地の草刈り集草	108
75	6月22日	日	保安全管理イベント	ミズアオイの生息場所づくり (延期)	-
76	6月28日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第61弾 通番73	1
77	6月28日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番73	2
78	6月28日	土	里地里山学講座	湿地資源を飼料利用した畜産物生産	8
79	6月29日	日	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番74	1
80	6月29日	日	ワークショップ	ほとりあ自然クラブ①	7
81	7月5日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第62弾 通番79	1
82	7月5日	土	保安全管理イベント	外来生物捕獲大作戦	46
83	7月5日	土	ワークショップ	どろっば池の水をぬく！池にはどんな生き物がいるかな？	22
84	7月6日	日	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第62弾 通番80	1
85	7月6日	日	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番80	1
86	7月12日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番85	5
87	7月12日	土	ワークショップ	松ぼっくりのツリーづくり	14
88	7月12日	土	ワークショップ	どろっばのたまごづくり	23
89	7月13日	日	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第62弾 通番86	4
90	7月13日	日	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番86	3
91	7月19日	土	ワークショップ	ほとりあ自然クラブ②	11
92	7月19日	土	自然観察会	夜の散策会	27
93	7月21日	月	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番93	1
94	7月26日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第62弾 通番97	22
95	7月26日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番97	4
96	7月26日	土	里地里山学講座	ラムサール条約湿地・佐潟のハス復活プロジェクト	18
97	7月28日	月	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第62弾 通番99	6
98	8月2日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第63弾 通番103	1
99	8月2日	土	ワークショップ	ほとりあ自然クラブ③ (宿泊型)	11
100	8月3日	日	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番104	1
101	8月3日	日	ワークショップ	ほとりあ自然クラブ③ (宿泊型)	10
102	8月4日	月	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第63弾 通番105	2
103	8月6日	水	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番106	4
104	8月8日	金	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第63弾 通番108	1
105	8月9日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第63弾 通番109	1
106	8月9日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番109	2
107	8月9日	土	ワークショップ	ハスの花を見るツアー	11
108	8月9日	土	ワークショップ	ハスのお茶づくり	10
109	8月10日	日	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第63弾 通番110	1

No.	月 日	曜日	イベント区分	イベント名	参加者数 (名)
110	8月10日	日	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番110	2
111	8月10日	日	ワークショップ	ハスの花を見るツアー	3
112	8月10日	日	ワークショップ	ハスのお茶づくり	12
113	8月16日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番115	2
114	8月16日	土	ワークショップ	どろっば池の水をぬく！池にはどんな生き物がいるかな？	25
115	8月16日	土	ワークショップ	自由研究対応事業 いのち学	3
116	8月17日	日	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第63弾 通番116	1
117	8月17日	日	自然観察会	夏の星空観賞会	8
118	8月23日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番121	2
119	8月23日	土	ワークショップ	消しゴムハンコでエコバッグづくり	18
120	8月23日	土	ワークショップ	消しゴムハンコではがきづくり	14
121	8月24日	日	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第63弾 通番122	2
122	8月24日	日	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番122	2
123	9月7日	日	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第64弾 通番134	3
124	9月11日	木	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第64弾 通番137	16
125	9月13日	土	保安全管理イベント	大山下池の外来植物駆除	22
126	9月13日	土	ワークショップ	ほとりあオリジナルぬり絵をえがこう	3
127	9月14日	日	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第64弾 通番140	1
128	9月14日	日	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番140	5
129	9月14日	日	保安全管理イベント	都沢湿地の外来植物駆除	10
130	9月20日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第64弾 通番145	1
131	9月20日	土	ワークショップ	ほとりあ自然クラブ④	11
132	9月20日	土	保安全管理イベント	下池のヒシ除去作業	18
133	9月27日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番151	3
134	9月27日	土	里地里山学講座	大山下池のサムライレンコンについて学ぶ	11
135	9月28日	日	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第64弾 通番152	2
136	9月28日	日	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番152	1
137	9月28日	日	自然観察会	都沢湿地周辺のトンボたち	11
138	10月4日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第65弾 通番157	2
139	10月4日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番157	3
140	10月4日	土	保安全管理イベント	都沢湿地の草刈り集草	6
141	10月8日	水	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第65弾 通番160	1
142	10月11日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第65弾 通番163	3
143	10月11日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番163	6
144	10月11日	土	ワークショップ	絵本の読み聞かせ	26
145	10月11日	土	ワークショップ	焼きマシュマロづくり	17
146	10月11日	土	ワークショップ	鶴岡産積み木遊び	28
147	10月11日	土	ワークショップ	渡り鳥のぬりおめんづくり	30

No.	月日	曜日	イベント区分	イベント名	参加者数 (名)
148	10月13日	月・祝	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第65弾 通番165	1
149	10月13日	月・祝	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番165	2
150	10月18日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番169	1
151	10月18日	土	保安全管理イベント	ヨシ刈り取り&ヨシぼちづくり (庄内セブンの森)	73
152	10月18日	土	自然観察会	カモのねぐら立ち観察会	6
153	10月19日	日	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第65弾 通番170	2
154	10月20日	月	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第65弾 通番171	4
155	10月25日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第65弾 通番175	2
156	10月25日	土	ワークショップ	コハクチョウ飛び立ちカフェ	50
157	10月25日	土	ワークショップ	ミニ竹あかりづくり	35
158	10月25日	土	ワークショップ	ほとりあ自然クラブ (宿泊型)	11
159	10月26日	日	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第65弾 通番176	4
160	10月26日	日	ワークショップ	ほとりあ自然クラブ (宿泊型)	11
161	11月1日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番181	2
162	11月1日	土	ワークショップ	庄内砂丘の大根抜き&干し大根づくり	16
163	11月2日	日	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第66弾 通番182	3
164	11月2日	日	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番182	3
165	11月3日	月・祝	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第66弾 通番183	2
166	11月3日	月・祝	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番183	5
167	11月8日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番187	2
168	11月8日	土	ワークショップ	焼きマシュマロづくりと絵本の読み聞かせ	19
169	11月8日	土	ワークショップ	渡り鳥の消しゴムハンコでハガキづくり	22
170	11月8日	土	ワークショップ	ちっちゃなどろっばのたまごづくり	18
171	11月9日	日	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番188	25
172	11月9日	日	ワークショップ	ほとりあミニ里山マルシェ	150
173	11月16日	日	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第66弾 通番193	1
174	11月19日	水	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第66弾 通番195	2
175	11月22日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第66弾 通番198	5
176	11月22日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番199	5
177	11月22日	土	ワークショップ	ほとりあ自然クラブ⑥	9
178	11月23日	日	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番200	2
179	11月29日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番205	6
180	11月29日	土	ワークショップ	松ぼっくりクリスマスツリーをつくろう	30
181	11月29日	土	ワークショップ	木の枝でトナカイとサンタクロースをつくろう	19
182	11月29日	土	里地里山学講座	ほとりあのこれまでと15年目への思い	28
183	11月30日	日	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第66弾 通番205	1
184	12月1日	月	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番207	2
185	12月7日	日	ワークショップ	松ぼっくりツリーづくり	37

No.	月 日	曜日	イベント区分	イベント名	参加者数 (名)
186	12月7日	日	ワークショップ	どろっばのミニたまごづくり	40
187	12月12日	金	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第67弾 通番215	2
188	12月13日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第67弾 通番216	5
189	12月13日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番217	6
190	12月13日	土	ワークショップ	焼きマシュマロづくりと絵本の読み聞かせ	26
191	12月13日	土	ワークショップ	松ぼっくりツリーづくり	17
192	12月13日	土	ワークショップ	木の実と枝でトナカイとサンタクロースをつくろう	21
193	12月13日	土	ワークショップ	夜のほとりのあ開放日①	80
194	12月14日	日	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第67弾 通	2
195	12月20日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第67弾 通	3
196	12月20日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番223	7
197	12月20日	土	ワークショップ	イタドリ笛づくり	33
198	12月20日	土	ワークショップ	どろっばのミニたまごづくり	31
199	12月20日	土	ワークショップ	まきまき松ぼっくり	31
200	12月20日	土	ワークショップ	夜のほとりのあ開放日②	60
201	12月21日	日	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第67弾 通	4
202	12月21日	日	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番224	4
203	12月24日	水	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第67弾 通	4
204	12月25日	木	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第67弾 通	2
205	12月27日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第67弾 通	2
206	12月27日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番229	4
207	12月27日	土	ワークショップ	渡り鳥のダンボールめいろ	20
208	12月28日	日	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番230	10
209	12月28日	日	ワークショップ	渡り鳥のダンボールめいろ	31
210	1月4日	日	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第68弾 通	9
211	1月4日	日	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番231	2
212	1月4日	日	ワークショップ	渡り鳥になってダンボールめいろ	61
213	1月7日	水	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第68弾 通	1
214	1月10日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第68弾 通	6
215	1月10日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番236	11
216	1月10日	土	ワークショップ	絵本の読み聞かせと焼きマシュマロづくり（ Rondさん絵本の	42
217	1月10日	土	その他	夜のほとりのあ開放日【開館時間延長】	120
218	1月11日	日	自然観察会	猛禽類観察会	15
219	1月12日	月	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第68弾 通	2
220	1月12日	月	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番238	2
221	1月17日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第68弾 通	4
222	1月17日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番242	9
223	1月17日	土	里地里山学講座	スワンププロジェクトー鳥類の渡り追跡公開と市民科学	25

No.	月 日	曜日	イベント区分	イベント名	参加者数 (名)
224	1月24日	土	ワークショップ	新春ほとリアコンサート	100
225	1月25日	日	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番249	1
226	1月31日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第68弾 通	1
227	1月31日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番254	6
228	1月31日	土	ワークショップ	湿地のミニランプシェードづくり	24
229	1月31日	土	ワークショップ	落ち葉のシールづくり	25
230	2月1日	日	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第69弾 通	1
231	2月1日	日	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番255	1
232	2月7日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第69弾 通	5
233	2月7日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番260	6
234	2月7日	土	ワークショップ	マイクロプラのストラップづくり	34
235	2月7日	土	ワークショップ	イタドリ笛づくり	25
236	2月8日	日	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番261	6
237	2月8日	日	ワークショップ	ほとリア味噌づくり	18
238	2月11日	水・祝	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番263	10
239	2月11日	水・祝	ワークショップ	木のジャングルジム「くむんだ～」	44
240	2月14日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第69弾 通	2
241	2月14日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番266	7
242	2月14日	土	ワークショップ	絵本の読み聞かせと焼きマシュマロづくり	26
243	2月14日	土	ワークショップ	夜のほとリア開放日	65
244	2月15日	日	ワークショップ	全国ヒシサミット	36
245	2月21日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第69弾 通	2
246	2月21日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番272	7
247	2月21日	土	ワークショップ	ほとリア自然クラフトルーム	20
248	2月22日	日	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第69弾 通	4
249	2月28日	土	ワークショップ	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！第69弾 通	2
250	2月28日	土	ワークショップ	どろっばのたまごさがし 通番278	5
251	2月28日	土	ワークショップ	ほとリア自然クラブ	10
252	2月28日	土	ワークショップ	自然クラブ活動報告会	27

2025年度（2026年3月下旬まで）
庄内自然博物館構想推進事業のテレビ放映及び新聞雑誌掲載

（1）TV、Youtube 放映など

NO	月日	テレビ局	番組名	タイトル名
1	4月22日	NHK山形	やままる	山形の百名山
2	6月4日	TYU	どすこいやまがた 三川場所	外来生物食材利用のフランス料理店 ピストロ・デ・ボンの特集
3	8月22日	YTS山形テレビ	スーパーJチャンネル	ハス御膳を食べる会
4	9月18日	YTS山形テレビ	スーパーJチャンネル	鶴岡市・大山下池「サムライレンコンの収穫始まる」
5	9月28日	NHK山形	NHKニュース	鶴岡市・大山下池「サムライレンコンの収穫始まる」
6	9月28日	NHK山形	やままる	鶴岡市・大山下池「サムライレンコンの収穫始まる」
7	9月30日	YTS山形テレビ	スーパーJチャンネル	湿地の恵み教育 in 大山保育園「サムライレンコン食育」
8	10月6日	YBC山形放送	NEWSNNN	鶴岡市の大山上池・下池に「冬の使者」飛来。今シーズン初
9	10月25日	毎日新聞	毎日新聞YouTube	冬の使者コハクチョウの飛来ピーク 山形のラムサール条約登録湿地に
10	11月18日	TBS	マツコの知らない世界	島バナナ特集で「干し柿」事業の写真使用

(2) 新聞・雑誌等掲載

2025年4月4日
荘内日報

The Shonai Nippo 2025年(令和7年)4月4日(金曜日) (2)

魅力を発信 地域おこし協力隊

古里で自然に関わる 「ほとりあ」拠点に小野寺さん

鶴岡市は1日、小野寺秀斗さん(40)＝城北町＝を地域おこし協力隊に委嘱した。任期は来年3月31日まで(1年おきの更新で最長3年)。同市馬町の自然学習交流館「ほとりあ」に勤務する。

この日、市役所で行われた交付式で皆川治市長から委嘱状を受け取った小野寺さんは山形大学農学部卒。前職は東京の会社で林野庁から委託を受けた森林や植物の植生調査に携わってきた。「古里に戻り自然と関わる仕事をしたい」と退職後、協力隊に応募した。

皆川市長は「大山上池と下池は山形県内で唯一、ラムサール条約に登録されている。今一度、魅力を引き出し交流人口の拡大に向けて頑張ってくれ」と激励した。

小野寺さんの所属は「庄内自然博物館構想推進協議会」(機井修 会長)。

皆川市長と飲談する小野寺さん

15・30	8・30	富樫	14・30	13・30	阿部	15・00	佐の	矢口	10・00	2市	皆川	10・00	荒木	18・00	森田
-------	------	----	-------	-------	----	-------	----	----	-------	----	----	-------	----	-------	----

「ほとりあ」を治会長)。「ほとりあ」は「もともと里山を中心とした自然環境が好きで、大学時代は森林生態学について学んだ。市民の心のよりどころとして親しまれている『ほとりあ』をはじめ『都沢湿地』や『高館山』といった周辺環境を多くの人に知ってもらえるよう努力したい」と抱負を語った。

環境保全活動や湿地資源の活用、環境学習の普及などに努める。

2025年4月4日
山形新聞

環境保全活動担う 小野寺さんが 鶴岡 協力隊に着任

鶴岡市の地域おこし協力隊に同市城北町出身の小野寺秀斗さん(40)が着任し1日、市役所で委嘱状交付式が行われた。市自然学習交流館「ほとりあ」の交流推進員として、環境保全活動などに取り組む。

山形大農学部で森林生態学を専攻し、卒業後は林業技士として全国各地の森林で動植物の生態調査などに携わってきた。学生時代に同市の高館山について研究した経験や知識を地元のために生かそうと、協力隊に応募したという。今後は都沢湿地と大山上池・下池周辺を中心とした自然環境の保全、動植物の生態系について理解を深めてもらうイベントの運営などを担う。

皆川治市長から委嘱状を受け取った小野寺さんは「県内外の人に湿地の自然に興味を持ってもらい、地域振興につなげたい」と抱負を語った。(杓沢杏佳)



委嘱状を受け取る小野寺秀斗さん(左) —鶴岡市役所

山形県鶴岡市にある市自然学習交流館「ほどりあ」は、休耕田となつていた都沢地区の湿地再生を目的に2012年に開館し、今年で14年目を迎える。

「ほどりあ」という愛称には、池のほとりに自然を愛する人々が集う場になるようにとの願いが込められている。その思いは着実に実を結び、保育園や小学校、企業などから多くの人が訪れ、24年度末には総来館者数が33万人を超えた。

都沢湿地のほか、施設周辺にはラムサール条約登録地の大山地や自然休養林の高館山など、自然環境がコンパクトに広がっている。特に主な活動場所である都沢湿地では、かつて庄内平野に広がっていた湿地の再生を目指し、地域住民、環境保全団体、行政、企業など多様な主体と連携した保全活動が継続的に行われている。ほどりあは、こうした自然と人が関わり合う学びと交流の場としての役割を担っている。

座標



開館当初から取り組んできたのが、湿地の自然遷移（陸地化）と外来動植物の増加という湿地再生の課題への対応である。ヨシの刈り取りのほか、ウシガエルやアメリカザリガニ、セイタカアワダチソウの駆除など、毎年保全管理イベントを企画、実施してきた。こうした継続的な活動を支えているのが「サポーター」の存在である。開館時からボランティア制度を導入し、理念を共有して共に活動する仲間をサポーターと呼んでいる。

これは、単なる手伝いではなく、対等な立場で施設を支える一参加者として位置づけたいという思いによるものである。サポーターは、個人または団体での登録が可能で、活動に積極的に参加するコアメンバーと、広報や資金支援を行う「賛助会員」がある。24年度末には両方あわせて約90人が登録されている。高校生から80代まで、年齢や職業もさまざま、それぞれ得意分野を生かして活動に関わっている。

湿地の再生を目指す

設に寝泊まりしながら働いたこともある。それでも辞めずに続けてこられたのは、サポーターの皆さんの温かく心強い支えがあったからである。未曾有の災害やパンデミック（世界的大流行）を経て、自然の価値は社会全体で改めて見直されている。ほどりあはこれからも人と自然、地域を結ぶ拠点として役割を果たしていきたい。そのために、今後もサポーターの皆さんの協力は必要不可欠である。この記事をご覧いただいた皆さんにも、仲間としてご参加いただければ嬉しい。

鶴岡市自然学習交流館副館長
上山 剛司
(山形県鶴岡市)

サポーターが心の支え

活動の回（時間）ごとに100円分の「サポーター」券を配布し、製菓店など地域の協力店舗で利用できる地域通貨の仕組みとなっている。12年から23年までに約7800回の活動が行われ、約60万円分が地域に還元された。サポーターの活動は、施設運営を支えるだけでなく、自然、地域とつなぐ役割を果たしている。私自身も開館当初から、この施設とともに歩んできた。人手も予算も限られていた開館当初は、施

庄内銀ふるさと創造基金 助成先52団体など発表

庄内銀行は1日、公益信託庄内銀行ふるさと創造基金の、2025年度の地域貢献大賞贈呈先2団体と助成先52団体を発表した。地域貢献大賞は、地域の特性を生かして森林学習を行う真室川北部小と、地元企業と共同で日本酒造りに取り組む村山産業高酒米研究班に贈られた。同大賞は12年に始まり、歴代助成先の中から豊かな地域社会の創造に向けた独自活動を展開し、活動の継続性や発展性で顕著な取り組みがあった団体を顕彰する。ふるさと創造基金は県内の

の学校教育、社会教育、文化活動への支援を通じ、地域社会の発展に寄与することを目的に設立された。鶴岡市に製造・開発拠点を置くオリエンタルモーター（東京）が趣旨に賛同して寄付を長年続けており、本年度も寄付金を助成金の一部に充てた。累計助成件数は延べ1082件になった。贈呈式は鶴岡市で6月10日に予定している。25年度の助成先は次の通り。

- 議会、庄内藩甲冑研究会、WRO山形予選会実行委員会、鶴岡工業高等専門学校、鶴岡市開発公社、鶴岡市加茂水族館、TRIP2 DIYジム実行チーム、念珠閣辨天太鼓創成会、Bwork事務局、Fringe、プロジェクト ヤマダイミニア、NPO法人やまこや、湯田川温泉神楽保存会（以上鶴岡市）、RDDin酒田西高実行委員会、酒田光陵高電気電子科、酒田吹奏楽団、サテライトサカ、総光寺護持会、松原小（以上酒田市）、ボランティアすまいる、庄内町、家庭教育応援・ボランティア活動団体アベルんち、新庄神室産業高、升形小、最上マイプロジェクト推進運営委員会、最上ラスベリー会（以上新庄市）、一十庭園保全会、新庄南高金山校（以上金山町）、小和田神楽保存会（鮭川村）、暮らしの保健室やまがた、旧山形師範学校講堂保存活用実行委員会、スライム

紙面編集・奥田孝吉

水面に笑顔広がる



新緑の下池遊覧満喫

県内唯一、ラムサール条約登録湿地として知られる鶴岡市の大山下池で3日、ボート遊びが行われた。連休中の親子が訪れ、まばゆい新緑に囲まれた水面で「ボート遊覧」を楽しんだ。

市自然学習交流館「ほとりあ」が、国際的に重要な水鳥の生息地を保全することを目的にしたラムサール条約の下池（広さ約24ha）に親しんでもらおうと企画。

この日は小学生を中心とした親子15組合わせて約60人が参加。下池のほとりでライフジャケットを身に着けた後、オールをこいでホ

ート遊びを満喫した。下池周辺のコナラといった広葉樹は、今が新緑の美しい時期。野鳥のさえずりを聞きながら家族水入らずのひとときを過ごした。

小学生の男の子は「面白かった」と満足そう。「ほとりあ」の職員は「ちょうどいまは（下池で）野鳥のカイツブリが繁殖のため縄張り争いをしている。しばらくするとヒナを連れてかわいい姿が見られると思う。野鳥に配慮してバードウォッチングも楽しんでほしい」と話していた。

「ほとりあ」では17日（土）午前10時から小学生を対象にした「ヤギの飼育体験」や31日（土）午前9時から近くの都立湿地で「生きものさがし」が行われる。いずれも2日前までの予約で参加料は300円。申し込みと問い合わせは「ほとりあ」☎電02355(333)8693へ。

外来生物の生態や規制

アメリカザリガニ釣りから学ぶ

ほとりあ



連休中とあって多くの親子連れが参加。ザリガニが餌に食い付くまで集中して見守った

鶴岡市自然学習交流館ほとりあ（富樫均館長）で5日、条件付き特定外来生物「アメリカザリガニ」の釣り体験が行われた。親子などが小さなさおを手にザリガニ釣りを楽しむとともに、外来生物としての生態や規制について学んだ。

この日はやや風が冷たかったため、急ぎよ屋内でイベントを実施。連休中とあって多くの親子連れが参加した。初めに同館職員がア

メリカザリガニについてもと食用となるウシガエルの餌として米国から来たが、非常に増えて他の生態系へ影響が出るようになった。2023年6月から条件付き特定外来生物に指定され、飼育はできるが他人に譲ったり野外に放したりすることは禁じられている」と生態や規制について解説した。

続いて50センチほどの小さなさおを手に、糸の先に餌のスルメを付けてザリガニ釣りに挑戦。目の前で餌を揺らしても警戒してなかなか

はさみでつかもうとしないザリガニに、子どもたちが「もつちよつとー」「食い付いた！」と大騒ぎしながら食い付きを待った。中には目の高さまで釣り上げて歓声を上げる子どももいた。

子どもたちは職員やボランティアスタッフがザリガニの持ち方なども教わり、職員から「アメリカザリガニは口の上にある穴からおしっこをする」と教えられると「ええー」と目を丸くする姿も見られた。

新潟県新発田市から母や妹たちと里帰りの中佐藤田麻さん（8）は「ザリガニ釣りは面白かった。学校で飼ったこともあり、餌をはさみでつかんで食べるどころがかわいい」と話した。

2025年5月9日

荘内日報



楽しかったゴールデンウィーク。連休中の庄内各地では、地域伝統の春祭りや家族連れ向けのさまざまなイベントが繰り広げられた。親子のほっこり笑顔や祭りを盛り上げる若者たち。そんな一コマを切り取った。

「すく楽しかった」。鶴岡市の大山下池でボート遊びを楽しむ親子。近くの鶴岡市自然学習交流館「ほごりあ」が案内で唯一、ラムサール条約に登録されている大山下池に親しんでもらおうと企画した。もうすぐ下池では野鳥のカイツブリが繁殖に入り、かわいらしいヒナが見られるという3日

2025年5月27日

河北新報

河 び 鯉 幸 2025年(令和7年)5月27日(火曜日)

座標

赤い体と大きなハサミをもつアメリカザリガニ(以下、ザリガニ)は、教科書や図鑑にも登場する日本の水辺でよく見られる代表的な外来生物である。子どもにも親しまれてきたが、2023年には条件付特定外来生物に指定され、野外への放出や販売・購入が法律で禁止された。ただし、従来の飼育実態を踏まえ、販売・頒布を目的としない飼育に限り、規制の対象外とされている。

ザリガニは1918年に導入された食用のワシガエルの餌として、27年にアメリカから日本に持ち込まれた。当初は人々の暮らしに役立つ「有用動物」として導入されたが、現在では生態系に深刻な影響を及ぼす外来種として、全国的に深刻な問題となっている。山形県内では鶴岡市(現・致道館高)に保護された標本の記録により、29・30年ごろに干葉原から持ち込まれたことが分かっている。

鶴岡市自然学習交流館「ほごりあ」では2012年の開館以来、毎年5・10月、年4000回以上わなを設置し、ザリガニとワシガエルの定期的な駆除している。その結果、両種のCPUE(単位努力量あたりの捕獲数)は減少傾向にある。特にザリガニはワシガエルの減少に伴い個体数の増加が懸念されたものの、来館者によるイベントでの捕獲などの効果もあり、CPUEはピーク時の半分ほどにまで低下した。

また体サイズも小型化し、ガムシなどの大型水生昆虫の確認や、水生昆虫の種数の増加といった生物多様性の回復も確認されている。

外来種食べて湿地保全

それでもなお現在も年約1000匹以上のザリガニを駆除しており、湿地の保全には多くの命が失われているという現実がある。

このような中、当館は14年、駆除された外来種を本来の導入目的である「食」として活用する「食べて環境保全」プロジェクトを開始した。ザリガニは戦中・戦後の食糧難の時代、一般家庭で食べられていた。そこで地域の飲食店と連携し、料理として提供する中で、「食べる」という日常的な行為を通して環境保全への関心を高めることを目的としている。

さらにコロナ禍には、保存性と家庭での活用を考え、地域の加工所と連携してザリガニの粉末化を実現。23年には大学や養鶏農家と協力し、ザリガニを鶏の飼料として活用する取り組みも始まった。

ザリガニに含まれるアスタキサンチンの効果により、与えた鶏の卵の黄身は色が濃くなり、有効な動物性たんぱく源としての価値が示された。これにより、駆除されたザリガニの50%以上が有効に活用され、命を無駄にしない地域内の循環が確実に育ってきている。

外来生物問題は今後ますます深刻化していくだろう。その背景には、人の移動や物流の拡大、生活様式や価値観の変化といった人間社会そのものの影響がある。外来生物は在来種を脅かす「加害者」である一方で、人間の都合で持ち込まれた「被害者」でもある。私たちはこの事実を目を向け、地域の自然の本来あるべき姿を見つめ直す責任がある。

上山 剛司

(山形県鶴岡市)

鶴岡市自然学習交流館副館長

命を無駄にしない

物性たんぱく源としての価値が示された。これにより、駆除されたザリガニの50%以上が有効に活用され、命を無駄にしない地域内の循環が確実に育ってきている。

外来生物問題は今後ますます深刻化していくだろう。その背景には、人の移動や物流の拡大、生活様式や価値観の変化といった人間社会そのものの影響がある。外来生物は在来種を脅かす「加害者」である一方で、人間の都合で持ち込まれた「被害者」でもある。私たちはこの事実を目を向け、地域の自然の本来あるべき姿を見つめ直す責任がある。

2025年6月25日
庄内日報

都沢湿地 保全の輪広げよう

鶴岡「庄内セブンの森」100人初活動

一般財団法人セブンイレブン記念財団（本部・東京）と地元との連携協定に基づいて設定された鶴岡市大山地区の都沢湿地の「庄内セブンの森」で21日、同財団やセブンイレブン加盟店、地元関係者らによる湿地の自然環境保全に向けた初めての活動が繰り広げられた。子どもたちを含め約



100人が参加し、草刈りや木道設置に協力した。同財団と鶴岡市、地元の庄内自然博物館構想推進協議会の3者は今年2月、保全活動や利活用に関する連携協定を締結した。全園19例目で、湿地を設定するの



「庄内セブンの森」活動で都沢湿地を散策する木道の設置作業も始まった

に、活動を展開する。協定締結後初の活動となった21日は、都沢湿地がある市自然学習交流館ほりあに関係者が集い、財団の社会貢献推進委員となったセブンイレブン鶴岡西郷店オーナーの三浦正信さん(39)が「活動を継続する中で、貴重な自然環境である都沢湿地へのより多くの皆さんの関心と保全活動への協力につなげていこう」とあいさつした。活動は5つの班に分かれて、下池周辺に広がる湿地で草刈りや刈り取った後の外来種のアメリカザリガニの捕獲、湿地を巡る木道の設置作業などに汗を流した。子どもたちは大人に教えてもらいながら、はさみや鎌を使って少しずつ丁寧に草刈りを行い、湿地保全に小さな力で協力していた。活動は年2回予定しており、木道を徐々に延ばしていく。

2025年6月26日
山形新聞



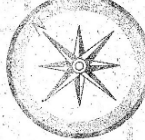
湿地の保全に向けマコモを刈り取った参加者＝鶴岡市

都沢湿地保全へマコモ刈り取り

鶴岡市と庄内自然博物館構想推進協議会（同市）、セブンイレブン記念財団は21日、同市大山地区にある都沢湿地の保全に向けた活動を行い、参加者が湿地に生えるイネ科のマコモを刈り取った。同財団が2006年から

全国的に取り組む「セブンの森」活動の一環で、3者が今年2月に結んだ協定に基づき、湿地を「庄内セブンの森」として初めて実施した。この日は、地元児童や市民ボランティアなど約110人が5班に分かれ、約7・7畝の湿地で高さ1・5メートルほどのマコモの刈り取りや木道設置を行った。参加した大山小1年石井悠詩さん(6)は「初めてだったけど上手にできました。トンボなどの生き物も見られて楽しかった」と話した。活動は2035年3月31日まで定期的に行う予定。（真壁慶次）

座標



数年前、地元の小学校で「自然は大切な思いですか？」と問いかけたことがある。およそ60人の児童のうち、ほとんどが「大切なと思う」と答えた。自然の大切さは、世代や地域を問わず、多くの人に共有されている感覚である。しかし、そもそも自然とは何だろうか。辞書には「人の手が加えられていないもの」や「おのずからあるもの」とあるが、現代の日本において、人の手がまったく加わっていない自然はほとんど存在しない。私たちが自然と感じている風景の多くは、農業などの人の営みによって形づくられ、維持されてきたものだ。つまり自然とは、人との関わりの中で創られてきた存在ともいえる。

山形県鶴岡市の都沢湿地もその一つ。かつて田んぼだった土地が長年放置され、湿地としての機能を失いかけた。やがて近くの池から水がしみ出し、少しずつ湿地の姿を取り戻し始めた。そこに草刈りや外来生物の駆除といった人の手が加わり、かつて生息していた生きものが再び戻ってきた。ただし、再生は「一度きりの活動では終わらない」。「自然を守る」とは、継続して関わり続けることを意味する。炎天下に胸長を履いて湿地に入り、アメリカザリガニのわなを引上げたり、ヨシやマコモを刈って光や水の環境を整えたり。多様な活動の積み重ねは、生態系のバランスを支え、同時に人と自然がともに暮らしてきた文化の記憶を受け継ぐ。

よへ「自然を壊してはいけない」と言われるが、近年ではむしろ「関

多様な活動 守り守られ

自然を見捨てない

わらないこと」「すなわち放置こそが、現代の自然にとって最大の脅威となっている。使われなくなった田んぼ、手入れのなくなった里山、水が入らなくなった湿地。こうした場所は、静かに、しかし確実に姿を消しつつある。

「関わり続ける責任」を多様な関係者の協働で実現していく動きも始まっている。2025年2月、「庄内セシンの森」という取り組みが、鶴岡市、セントリーブ記念財団、自然学習交流館「ほどりあ」が加わる庄内自然博物館構想推進協議会の3者協定に基づきスタートした。異なる視点を持つ団体が、その特性や強みを生かしながら連携し、継続的に自然に手をかけ、「見捨てない関わり」を広げていく実践である。

こうした活動の現場に、私も関わり続けている。自然に向き合い、汗を流す日々の中で、「自然の中で動けてくまらさずね」と声をかけられることがある。確かに自然

は美しく、癒やしをもたらしてくれる。しかし現場では、多様な業務に追われる日々が続き、いまだに「ボランティア的な活動」と見なされがちで、待遇や社会的な理解には課題が残る。

それでも人が関わることで自然は再生し、学びが生まれ、地域が支えられる。自然に関わる仕事が、持続可能な社会を支える「ひとつの仕事」として正当に評価される日が来ることを願っている。

この願いを次の世代につなぐためにも、私たち一人一人が自然を「見捨てない」関わり続ける責任を果たしたい。

鶴岡市自然学習交流館副館長
上山 剛司

(山形県鶴岡市)

駆除した外来生物 活用への試み学ぶ

鶴岡市自然学習交流館「ほどりあ」里山講座

鶴岡市自然学習交流館ほどりあのある「里地里山学講座」が6月28日、同施設で開かれ、市民らが外来生物のアメリカザリガニを活用する



駆除した外来生物の有効活用について学んだ里地里山学講座。鶴岡市自然学習交流館ほどりあ

取り組みを学んだ。同館は都沢湿地で駆除したアメリカザリガニを利用してしようと、2023年度から山形大農学部が松山裕城

准教授(51)と共同研究を実施。養鶏業を営む佐藤直樹さん(53)は同市宝徳の協力を得てニワトリの餌として活用を試みている。

2人が講師を務め、松山准教授は飼料の一つとして与えたところニワトリが好んで食べたと紹介。黄身の色が濃くなる傾向があり、甲殻類の色素物質で抗酸化作用が期待される「アスタキサンチン」が移行した可能性を説明した。詳しい分析を行う考えも示した。

このほか地域内循環型農村経済圏の構築を目指す同大の「庄内スマート・テロワール事業」を紹介した。同館を運営する庄内自然博物館構想推進協議会が主催し、約20人が聴講した。

(相原建右)

8月のお盆前
 鶴岡・大山下池
仏壇に供えるハス刈り取り



雨の中、ハスの花や巻き葉、花托などを刈り取る組合員や応援隊の女性たち

8月のお盆を前に鶴岡市大山下池で10日朝、仏壇に供えるハスの刈り取りが行われた。江戸期から続く同地区の本町浮草組合（田中富雄組合長、組合員30人）による伝統の作業。同組合は大山下池のハスを採取する権利

を有し、小舟に乗って組合員が水面の葉をかき分けながら刈り取る風景は、大山下地区の夏の風物詩となっている。この日はあいにくの雨天となったが、午前5時ごろから田中組合長と組合員2人、同組合の応援隊の女性2人が3隻の小舟に乗って、ハスのつぼみや巻き葉、花托などを刈り取った。田中

組合長は「根腐れしたのももあり、例年に比べてハスの生育はやや悪い。注文が増えた分、採取できる数はぎりのぎりになりそう」と語る。この時期は「この時期は大山や上郷、西郷などでお盆用としてつぼみや巻き葉、花托のセットの需要が増える。近年は青果物卸売を通して酒田や秋田方面からも注文があるようだ」と話していた。

ハスの刈り取り作業は11日も行われる。同組合は11日午前10時から大山下池西側でハスの花の直売をする予定。なくなり次第終了する。

2025年8月11日
 朝日新聞

お盆三点セット収穫

鶴岡・大山下池

鶴岡市大山下地区にあるラムサール条約登録湿地



の大山下池で10日、お盆用のハスの花や葉などの収穫が行われた。大山下池は農業用のため池で、江戸時代から続く大山浮草組合がハスの花やレンコンなどを収穫してきた。この日は田中富雄組合長（74）ら6人が早朝から手こぎの舟でこぎ出し、お盆用のハスの花のつぼみ、花が散った後の「果托」、葉が開く前の「巻き葉」を手際よく刈り取った。

組合によると、地元では昔からお盆にこの三つを仏前に供え、開いた葉も供え物の皿として使ってきた。昨年は7月の大雨でハスの花が水没してしまいが、今年も根腐れなどで生育は2年続けて良くないが、需要には応えられそうだという。

この日収穫したハスの花や葉は、池のほとりの臨時直売所、池に近い市自然学習交流館「ほのりあ」、市内の産直「もんとあくる白山店」で販売した。

田中組合長は「収穫に参加する組合員は減ってきたが、ハスの花やレンコンの収穫をこれからも続け、昔から大事にしてきた組合の活動を維持していきたい」と語る。

収穫にも参加した、ほのりあ副館長兼学芸員の上山剛司さん（48）は「ハスを活用すれば、池に残る葉や茎が減り、湿地の環境や水質の保全につながる」と期待する。大山下池は大山下池とともにラムサール条約登録湿地に指定され、コハクチョウなどの渡り鳥の越冬地になっている。

ハスの収穫と販売は11日も行う予定。問い合わせは同館（0235・3386933）。（清水康志）

大山下池で収穫したハスの花と果托、巻き葉を手にする田中富雄組合長（右）＝鶴岡市

カラーで楽しむ
 紙面ビューアー



登録無料

大山のハス 御膳で提供

加茂水族館内レストラン、来月限定



1カ月限定で提供される「大山ハス御膳」
＝鶴岡市・魚匠ダイニング沖海月

鶴岡

鶴岡市立加茂水族館内のレストラン「魚匠ダイニング沖海月」は、同市の大山上池

・下池で栽培されたハスの花、葉、茎を余すところなく使う料理「大山ハス御膳」を来月1日から1カ月限定で提供する。

ハスは本町浮草組合（田中富雄組合長）が生産し、主に盆のお供え用に販売している。別の形で活用してみようと、須田剛史料理長（50）が同組合や下池に隣接する市自然学習交流館「ほ

「キジフル」にA-1編集動画

と「りあ」と連携し、考案した。

花びらは鮮やかな色を生かし、ハモを挟んだ天ぷらや、砂糖漬けにしてあんこを包んだデザートに活用。

大きな葉は器に使い、茎は塩水に漬けてあくを取っておひたしにした。須田史料理長は「食用としてなじみがないハスだが、食べやすく下処理し、おいしく楽しめると話す。

予約が必要で、1日10食

限定。9月末まで1食2千円で提供する。問い合わせは沖海月0235（64）8356。（香沢杏佳）

鶴岡の夏を味わう

沖海月「大山ハス御膳」



来月1日から提供する「大山ハス御膳」

鶴岡市立加茂水族館の魚匠ダイニング沖海月は9月1日から「大山ハス御膳」の提供を始める。ハスの葉や茎を使った料理が楽しめる。

大山下池に自生するハスの花をお盆用に出荷したり秋にレンコンを収穫し、地域資源の有効活用を進めている本町浮草組合（田中富雄組合長）を応援しようと沖海月の須田剛史料理長（50）が考案した。

内容はハスの葉でハモを包んで揚げた天ぷらやハスの茎を使った小鉢、外内島きゅうりと夏野菜の冷菜、マダイとキノコの包み焼き、月山高原で栽培された「月山粉雪そうめん」など。ハスを中心に地元食材をふんだんに使ったお膳に仕上げた。提供を前に22日、本町浮草組合のメンバーと下池近くにある鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」の職員を招いた試食会が沖海月

で開かれ、ハス御膳を会食した。本町浮草組合の田中組合長は「ハスの素材を生かした上品な味。とてもおいしい」と感想を話した。須田史料理長は「ハスを中心に『鶴岡の夏』が感じられるお膳にした。味わってほしい」と語った。大山ハス御膳は9月末まで。価格は2000円（税込み）。予約が必要。問い合わせは沖海月〓電0235（64）8356〓へ。

サムライレンコン収穫始まる

鶴岡市大山・下池 産直やイベントで販売

水鳥の生息地に関わる国
際的に重要な湿地として「ラ
ムサール条約」に登録され
ている鶴岡市大山地区の下
池で、レンコンの収穫が始
まった。細く長い刀のよう
な形状から、一昨年「サム
ライレンコン」と命名され

た。今年は同市白山地区の
JA直売所もとあきる白
山店で販売するほか、地元
保育園への贈呈などが予定
されている。

今年も「サムライレンコン」
の収穫がスタート。細長い
形状はまさしく刀のよう
18日



組合長、組合員30人。今
シーズンは今月15日から生
育状況を見ながら収穫を開
始し、週明けの22日ごろに
は本格化するという。

18日は田中組合長が午後
から小舟に乗り込み、水面
のハスの葉を目印に収穫作
業を行った。水中のレンコ
ンを種やかき付き棒で探り
当て、舟の上まで引く張る
と、舟近くもある細長い地
下茎が姿を現した。水田な
どで栽培される品種改良し
たレンコンと違い、細長く
柔らかめなのが特徴。

田中組合長は「大雨で池
の水位が上昇した昨年と違
い、今年はますますの状況
だがレンコン自体はまだ小
ぶり。徐々に大きいものも
収穫できそうだと話した。

収穫は9月末または白鳥が
飛来する直前の10月5日前
後まで行われる。

レンコンは地元保育園へ
の贈呈や産直で販売するほ
か、21日につるしんアリー
ナ小真木原で開かれる「環
境フェア」のブースでも販
売される。

一般的に流通しているレ
ンコンは品種改良されてお
り、例年コハクチョウが飛

掘り起こしたら「日本刀」?

鶴岡・大山下池サムライレンコン収穫

ラムサール条約登録湿地
である鶴岡市の大山下池
で、形状が日本刀に似てい
る「サムライレンコン」の
収穫が本格化している。地
元でハスの生産などに取り
組む大山浮草組合（田中富
雄組合長）の組合員が舟を
こぎ、かき爪のついた専用
の棒を使って水中から掘り
起こしている。

一般的に流通しているレ
ンコンは品種改良されてお
り、例年コハクチョウが飛



本格的に収穫が始まっ
た。形状が刀に似たサム
ライレンコン。
〓 鶴岡市・大山下池

来する10月上旬まで続く。
近くの産直施設や鶴岡公園
（同市）で開かれる「鶴市」
で販売し、市立加茂水族館
内のレストラン「魚匠ダ
イニング沖海月」でも提供
する。収穫体験も行ってお
り、問い合わせは田中組合
長090（6785）80
11。（真壁慶次）

2025年10月5日
山形新聞

井支社0238(84)2220
陽支社0238(40)2451
地域の情報をお寄せください

鶴岡
サムライレンコン
触れたり食べたり
園児が地元の恵み学ぶ
ラムサール条約登録湿地の大

山下池（鶴岡市）で収穫されたレンコンについて学ぶ教室が9月30日、同市の大山保育園（高橋亨園長）で開かれ、年中児25人が地元



を「サムライレンコン」と名付け、食用としてPRしている。この日は田中組合長らが5名を持参し、特徴

現地ではハスの栽培に取り組む大山浮草組合（田中富雄組合長）が近年、地下茎が肥大した細長いレンコン

や大山下池などについて説明した。園児は手で折って穴の数を確認し、給食ではきんぴらとして味わった。阿部海琴ちゃん（5）は「中身はねばねばしていて初めて見た」と話していた。教室は市自然学習交流館ほとりあと浮草組合が2023年から企画している。（相原健佑）

鶴岡市・大山保育園

2025年10月7日
山形新聞



大山下池で確認されたコハクチョウ
11月6日午前11時4分、鶴岡市

冬の使者 今年も コハクチョウ 初飛来・鶴岡

ラムサール条約に登録されている鶴岡市の大山上池・下池で6日、今季初となるコハクチョウの飛来が確認された。近く

の市自然学習交流館「ほとりあ」によると、昨年より1日早く、平年並みという。同日午前9時半ごろ、

同館の上山剛司学芸員（44）が、鳴き声を上げながら上空を飛ぶ4羽に気付く、下池に着水するのを確認した。下池にはこの時、他に4羽おり、上山さんは同10時半ごろ、上池にも8羽いるのを見

つけた。下池では同11時ごろ、羽を開いたり、水面を泳いだりする様子が見られた。今季のピークは今月中旬から11月中旬とみられる。（真壁慶次）

2025年10月8日

山形新聞

愛鳥週間ポスター
特選9点、全国へ
県コンクール
2025年度の県愛鳥週
間ポスターコンクールの入
賞者が決まった。特選9点
が今月中旬に行われる全国

コンクールに出品される。
県のコンクールは愛鳥週
間(5月10〜16日)や野鳥
愛護思想の普及・啓発を目
的に1967(昭和42)年
から実施されている。58回
目となる本年度は県内50
の小中高校から136点の

応募があり、日本野鳥の会
県支部役員や中学教諭ら5
人が審査した。主な入賞者
は次の通り。

(洋数字は学年)

◇特選▽県知事賞 高橋律
(南沼原小4) 村山春佳(上山
北中3) 金成千彩(山形西高3)
▽環境省東北地方環境事務所長
賞 阿部宗作(山形小3) 菅
野智愛(山形二中2) 加藤潤(榎
山高2) ▽県教育長賞 有川ほ
のか(山形大付属小1) 高橋礼
奈(陵南中3) 左右田心(長井
高2)

◇特別賞▽日本野鳥の会県支
部長賞 中島綾香(舟形小2)
安部叶那子(山形一中1) 左右
田凜(長井高1) ▽鶴岡市自然
学習交流館ほとりあ館長賞 小
向旭(金山小2) 渡辺碧海(山
形九中1) 渡辺みやま(山形西
高1)

(吉村瑛人)

2025年12月17日

山形新聞



松ぼっくりのサンタクロースやトナカイを制作した
児童
|| 鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」

松ぼっくりに三角の帽子 置物作り

鶴岡 クリスマスをテーマにした工
作イベントが13日、鶴岡市自然
学習交流館「ほとりあ」で開かれ、子ども
たちが松ぼっくりやドングリ、木の枝など
を使い、手のひらサイズの置物作りに挑戦
した。

松ぼっくりにカラフルな毛糸を巻き付け
てツリーにしたり、三角の帽子をかぶせて
サンタクロースにしたりするなど、思い思
いに制作。好きな色の飾りを選びパーツを
接着剤で慎重に組み立て、自分だけの置物
が完成すると、うれしそうに眺め記念撮影
もしていた。

三川町東郷小4年の小野寺彩織さん(9)
は「ドングリと白い綿で雪の中を歩くトナ
カイを作った。家に飾ってクリスマスを待
ちたい」と笑顔だった。(杓沢杏佳)

2026年1月9日

山形新聞



渡り鳥のお面をかぶって楽しむ段ボール迷路＝鶴岡市自然学習交流館ほとりあ

段ボール迷路で野鳥の生態学ぶ

お面かぶり子どもら挑戦

鶴岡 渡り鳥をテーマにした段ボール迷路のイベントが4日、鶴岡市自然学習交流館ほとりあで開かれ、子どもたちが楽しみながら野鳥の生態などに理解を深めた。

迷路はシベリアをスタートし、越冬のため飛来する同館近くの大山上池・下池を目標

すとの設定で作られた。同館周辺で確認されたコハクチョウやオオヒシクイなど5種類の鳥のお面が用意され、職員がそれぞれの模様の特徴や食べ物などを紹介した。同市のやまのこ保育園年長の伊藤玄一郎ちゃん(6)は、種類のお面をかぶって迷路に挑戦し、「マガモは家の近くの川で見たよ」と話していた。

イベントは大山上池・下池のラムサール条約登録10周年を記念し、2018年から同館が年に数回開催している。

(棚井さとみ)

2026年1月24日

山形新聞



ハクチョウの生態詳しく

鶴岡で講座 調査の手法を紹介

鶴岡市自然学習交流館ほとりあの「里地里山学」特別講座が17日、同館で開か

れた。宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団の嶋田哲郎研究員が、ハクチョウ

嶋田哲郎室長が「スワンププロジェクト」を紹介した特別講座

＝鶴岡市自然学習交流館ほとりあ

にカメラや衛星利用測位システム(GPS)を搭載した装置を取り付け生態を調査する「スワンププロジェクト」を紹介した。

嶋田室長は2023、25年、オオハクチョウとコハクチョウ計約40羽に装置を取り付け、4時間ごとに送られる位置情報と画像を分析し

た。データを基に海を越える際に水面近くを飛ぶことや、気温の低下、積雪などで南下するケースを解説し「写真がなければ分からない情報だった」と話した。

一般にもデータを共有できるアプリを活用し、交流サイト(SNS)などで投稿してもらうことで、新たな生態の発見につながるという。一般の方も協力しながら研究を進めていきたい」と強調した。

同館を運営する庄内自然博物館構想推進協議会が主催し、約30人が聴講した。

(真壁慶次)

2026年2月13日
 荘内日報



木製ジャンクルジム「くむんだー」

子どもたちが木製の柱やくさびを組み合わせ、ジャンクルジムの製作体験。くむんだーが11日、鶴岡市馬町の市自然学習交流館ほとりあで開かれた。金具は一切使わない日本の伝統技術「貫工法」を用いたイベントで、木づちを手にした子どもたちが木材の隙間にトントんとくさびを打ち込み、木造建築の奥深さについて学んだ。

「くむんだー」は、全国ジャンクルジム協会（事務局・川村工務店）が取り組む木育活動事業の一環。子どもたちが真剣なまなざしで、柱や貫を固定するくさびを木づちで打ち込んだ。

木製ジャンクルジムの製作と遊びを通して、子どもたちから林業や製材、自然の循環、伝統工法に理解を深めてもらうことを目的とする。

県内には鶴岡市と金山町に支部があり、つるおか伝統木構法千年塾が運営するくむんだー山形（鶴岡市東原町、製材大輔代表）は庄内地方を中心に活動している。ほとりあを会場にしたイベントは同施設が主催し、4歳児から小学生を対象に昨年からは開催している。昨年は予想よりも来場者が多かったため、今回は予約制で実施。午前と午後の2回に分け、このうち午前の部は鶴岡市内を中心に4歳児から小学3年生までの

4歳児から小学生対象 鶴岡で伝統技術体験会

18人が参加した。ヘルメットを装着した子どもたちは製材代表をはじめスタッフの補助やアドバイスを受けながら、柱材に貫材を差し込んで組み合わせ、木材を固定するため木づちでくさびを打ち込んだ。

30分ほどの作業でジャンクルジムが完成すると、頂上まで登ったり柱と柱の間をくぐり抜けたりと思いのほかに遊んでいた。友達と一緒に市内から参加した佐藤旭君（6）は「ジャンクルジムがだんだん出来るのが楽しかった。みんな遊べてうれしい」と話していた。

製材代表は「天井の高さを考慮して、昨年末に酒田市で開催した体験会より一回り小さいジムだったが、子どもたちが楽しんでくれて良かった。自然循環や木の利用について知ってもらうため、さらに活動を広げていきたい」と語った。

2026年3月10日
 山形新聞



自然や歴史テーマ 調べた結果を紹介

鶴岡市自然学習交流館ほとりあの学習発表会が7日、同施設で開かれ、利用する

る児童らが周辺の自然環境について調べた結果などを紹介した。

2012年の開館以来続く催しで、今回は12団体・個人が自ら設定した自然や歴史、文化をテーマに発表した。このうち同市大山小3年の上山紋司さん（9）は、ラムサール条約登録湿地の大山下池で古くから栽培されているハスの特徴などを報告した。

酒田市松原小6年の笹原優さん（12）は、外来生物アメリカザリガニの駆除をはじめ、自身が参加した5年間の取り組みをまとめた。個体数の減少などを踏まえ、「僕たちの活動が（環境保全に）役に立っていると感じた」と話した。

（相原健佑）

児童らが調査内容などを報告した学習発表会

〓 鶴岡市自然学習交流館ほとりあ

地区の自然や歴史文化テーマに

鶴岡市自然学習交流館ほとりあ・学習発表会

小学3年から70代まで **12個人・団体活動報告**

鶴岡市馬町の市自然学習交流館ほとりあで7日、本年度の学習発表会が開かれ、地域の小中学生や市民らが施設周辺の自然や歴史文化について学んできた成果を発表した。

同館では子どもの自由研究や総合学習、市民の自然調査活動の支援にも力を入れており、その成果発表の場として毎年この時期に学習発表会を開いている。今回は小学3年生から70代までの12個人・団体がそれぞれ取り組んできた活動の成果を報告した。

この日、参加者は▽大山地区の自然▽昆虫調査▽外来生物の駆除▽環境保全活動▽草木染サークル活動などをテーマに発表。このうち大山小3年の上山紋司君は「ほくの『ハス』の研究」と題し、ハスの特性や大山地区での活用などについてまとめた。

上山君は研究で、葉が水以外で液体をはじくかどうか実験したり、食材としてきんぴらやごま和え、ハスを調理。「ハスはほとんどの部分を食べられるスーパーフード。大昔から利用

それぞれのテーマで取り組んだ学びの成果発表会



ワイド地域プラスPLUS



本紙記者が南極地域観測隊の活動を紹介した講演会
＝鶴岡市自然学習交流館ほとりあ

南極からの警鐘に耳を

観測隊同行取材 本紙記者が講演

鶴岡 第66次南極地域観測隊の夏隊し、南極観測に関するエピソードや調査内容を紹介した。近岡主任は2024年12月4日、鶴岡市自然学

月から25年4月まで同行取材した。講演では隊員らを乗せた南極観測船「しらせ」や昭和基地での生活設備、観測調査などを解説。曜日感覚を保つため、船内では毎週金曜日が「カレーの日」と説明した。現地の観測活動の意義を伝えつつ、「山形のような人の営みが調和した自然も美しい。南極からの環境問題への警鐘に耳を傾けながら、身近な場所を保全する取り組みも大切だと思う」と語った。同館を運営する庄内自然博物館構想推進協議会が主

催する里地里山学講座の一環で、14人が聴講した。同市錦町、大学教員梶原昂彦さん(59)は「観測隊に関する県人が多くて驚いた。遠い世界が身近に感じられる」と話していた。山形新聞社は南極地域観測隊に同行した記者を講師として派遣している。問い合わせは山形新聞社編集局「南極講演係」023(622)53805。(相原健佑)